

淡青

t a n s e i

34

2017/03

[特集]

極地まで動物を追う研究者、保険監督の国際機関トップ、
感染症撲滅基金のCEO、NASAのエンジニア……

地球規模で活躍する
卒業生14人の姿から見る

世界と東大。

UTokyo is one with the World, and the World is with UTokyo.

[サイエンスへの招待]

微細藻類を軸に持続可能社会を目指す
「バイオマス・ショア」構想
海洋底地球科学——
「さあ、みんなで海へ出よう」

[キャンパス散歩]

生態水文学研究所の巻

今号の表紙は、総合研究博物館と日本郵便株式会社が協働で運営する公共貢献施設「インターメディアテク」にある大地球儀です。高さ2mを超える大地球儀は、本郷の図書館から小石川の博物館、丸の内へと移りながら、ベルギーと日本の学術交流史を伝えます(→表4)。



空間・展示デザイン©UMUT works 2013-

「淡青」について

東京大学と京都大学(当時は東京帝国大学、京都帝国大学)が1920年に最初の対校レガッタを瀬田川で行なった際、抽選によって決まった色が「淡青(ライト・ブルー)」であり、本学の運動会をはじめスクール・カラーとして親しまれてきました。

『淡青』34号をお届けいたします。今回の特集テーマは、「世界と東大」です。文系から理系、ビジネスから学究、芸術から政策と縦横無尽に地球規模で活躍する東大卒業生14名の姿から、世界と共にある東大を浮き彫りにします。本誌恒例の巻頭対談では、担当理事として東大の国際化に取り組む羽田正先生と、オックスフォード大学の荻谷剛彦先生をお迎えし、東大の現代グローバル社会における価値を語っていただきました。途中、昨年11月に開催された「プレジデント・カウンシル」の様子をお伝えするとともに、後半では、「サイエンスへの招待」として、微細藻類応用学、海洋底地球科学に挑む女性研究者に登場いただき、巻末のシリーズ「キャンパス散歩」では、愛知県尾張東部丘陵に位置する自然豊かな生態水文学研究所を紹介いたします。

東京大学広報室長 鈴木真二

編集発行/東京大学広報室

鈴木真二(広報室長 工学系研究科教授)

広報誌部会/

白波瀬佐和子(広報室副室長 人文社会系研究科教授)

木下正高(地震研究所教授)

高橋慎一郎(史料編纂所教授)

三谷恵子(人文社会系研究科教授)

高井次郎、八木橋麻美(広報課)

中丸典子(卒業生課)

森和博、梶野久美子(卒業生室)

アートディレクション/細山田光宣(細山田デザイン)

デザイン/グスクマ・クリスチャン(細山田デザイン)

撮影/貝塚純一(p1,3-11,14,21,32)、井上匠(15-19,20)

印刷/図書印刷

発行/平成29年3月7日

【淡青】お取り寄せ方法



テレメールで【淡青】を取り寄せることができます。右のURL、またはTEL(自動応答電話)にアクセスして、資料請求番号をご入力ください。送料はご負担ください。



URL: <http://telemail.jp>
TEL 050-8601-0101
(24時間受付)
資料請求番号: 985194
送料: 180円(後納)

*本誌へのご意見・ご感想はpr.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jpまでお寄せください。

contents

p.03-25

【特集】

地球規模で活躍する卒業生14人の姿から見る
世界と東大。

p.04-07

【巻頭対談】

世界と大学。
羽田正 vs 荻谷剛彦

p.08-11

国立極地研究所准教授 渡辺佑基さん
スタンフォード大学准教授 菅谷拓生さん
アクティブ・コネクターCEO 松本麻美さん
保険監督者国際機構事務局長 河合美宏さん

p.12-13

国連と東大。

p.14-17

H2L創業者 玉城絵美さん
フィールド&マウンテン代表取締役 山田淳さん
シドニー大学准教授 ペトゥル・マトウシュさん
シナモンCEO 平野未来さん

p.18-19

第12回プレジデント・カウンシル

p.20-25

ネクスト・キャピタル・パートナーズ マネージャー 徳田和嘉子さん
グローバルヘルス技術振興基金CEO スリングスビーBTさん
国際民間航空機関 田中铁也さん
グーグル ランドバーク史枝さん
NASAジェット推進研究所 小野雅裕さん
在ベルギー日本国大使館 森田健司さん

p.26-27

【サイエンスへの招待】

微細藻類応用学 倉橋みどり
海洋底地球科学 沖野郷子

p.28-29

【キャンパス散歩】

生態水文学研究所 広嶋卓也

p.30-31

【東大からのお知らせ】
東京大学トビックス

大学は世界と共にあり、世界は大学と共にある。

卒業生たちのグローバルな活躍ぶりから見る

世界と東大。

留学する日本人学生の数や、
外国人留学生の数や、外国人教員の数や……。
そうした数字だけでは見えてこない世界との関わりが
大学にはあるのではないのでしょうか。
今号の特集では、卒業生の姿に一つの答を見て取ります。
夢をこじ開けるために海を渡った人、
世界の秩序のために国を代表して尽力する人、
日本と世界をつなぐ仕事に覚醒した人、
来日して気づいた日本の価値を世界に発信する人……。
今日も地球のあちこちで淡青色の風が吹いています。

東京大学の海外拠点

上図の淡青色の点は東大が海外に展開する41拠点（2016年5月現在）の場所を大まかに示します。その内訳はインド、韓国、タイ×3、中国×8、バングラデシュ、ベトナム×2、モンゴル、ラオス、オーストラリア、アフガニスタン、チリ、ボリビア、アメリカ×8、カナダ、イタリア、オランダ、スイス×3、スペイン、フランス×4。卒業生の活躍場所は……とても示しきれません。

UTokyo is one with the World, and the World is with UTokyo.

世界と大学。

日本で知の体系を蓄積してきた東大の
現代グローバル社会における価値とは？

羽田 正

理事・副学長

荻谷剛彦

オックスフォード大学教授

特集テーマについて識者が語り合う本誌恒例の巻頭対談。
今回は、担当理事として東大の国際化に取り組む羽田正先生が、
このテーマでいま話したい人として真っ先に名前を挙げた、
オックスフォード大学の荻谷剛彦先生をお迎えしました。
大学が国際社会で果たすべき役割、世界のなかでの東大の立ち位置、
目指すべき国際化の姿、はたまた東大や東大生への注文について、
地球儀を手元に置きながら語っていただきました。

ファルク地球儀レプリカ

江戸時代の輸入地球儀で現存する最古のものが長崎県の松浦史料博物館にあります。1700年にオランダのファルクが製作し、平戸藩主・松浦静山が伝えてきたもの。北海道がなくオーストラリア辺りが不正確なのは製作が伊能忠敬やクックの登場前だから。銅版画家でもある製作者による美しい球体が大航海時代の息吹を現代に伝えます。
渡辺教具製作所 blue-terra.jp

——課題が山積する国際社会で大学はどういう役割を果たすべきか。日本は、東大は、世界でどんな立ち位置にいるのか。その辺りから始めていただけますか。

羽田 では私から。世界的な課題というのはそう簡単に解決するはずはない、と私は思っています。唯一の解というものではなく、様々な解があって、その様々な解にアプローチするための知を提供する場として機能しているのが大学です。グローバル化が進み、国家の力だけでは世界の秩序を維持できない中、大学は世界の諸問題の解決に資する知を生み出し、世界の公共性に奉仕するために存在します。東大憲章にも記されたこの考え方が非常に重要です。日本には日本語による知の体系があり、そこから生まれる独自の見方、問題へのアプローチに特徴的なものがある。日本にある東京大学はこれを活かして世界の知に貢献すべきだと思います。羽田先生はいかがでしょう。

ユニバーサルな分野と地域性を背負う分野の違い

羽田 便宜的に文・理に分けてみましょう。理系の分野では、論文を英語で書くのが普通です。英語以外にも数式、化学式とユニバーサルな言語があって、対象もユニバーサルですから、どこで研究しようと問題ありません。一方、文系の学問の多くは歴史と文化と地域性を背負っています。非西洋圏で、ローカルな言語で学問的蓄積を社会や文化に対して行っているという意味では、日本は世界でトップです。その知の体系は日本語で表現し蓄積してきたもの。歴史や文化の独自性と同時に、それを学問として残してきたことが強みとしてあります。この20～30年で西欧中心の見方にも反省が加わり、西欧は世界の中心ではないという見方が浸透してきました。そこで新しい発想を打ち出せるとしたら、極の一つは日本です。当然、東京大学の役割は非常に重要です。

羽田 その通りですね。日本は日本語で世界の細部に到るまで考え、理解できる知の体系を持っています。英語やフランス語など別の言語の知も貪欲に取り込みましたから、複雑で高度な知の体系になっているはずですが。でも、残念ながら関心をもつ外国人は多くない。その知を他言語に移し替えることもあまり行われていない。それが問題です。

羽田 自動翻訳の技術が劇的に発展したら話は別ですが、なかなかそうはいかないとすると、精密な表現が可能なローカル言語を持つことは強みです。ローカル言語のまま閉じるのではなく、文系も外に発信しようとはよく言われます。このとき、発信の本質を間違えると、読まれるものになりません。日本語で書いたものを他言語に移すだけでは見てもらえない。読まない一つの理論が組み立てられないとか、その発想を使えば+αが生じるとか、独自の価値が加わらないといけません。研究が海外でも価値を持つにはどうすべきかという発想を持つべきです。

文系でも、経済学、心理学、社会学の一部など、サイエンスに近い分野は言語に依存しません。世界標準の手法を日本語で行えばよいわけですが、これはユニバーサルな手法に日本のデータを載せるということ。日本の知の体系のアピールにはなかなかありません。ずれが見つかったとしてもそれだけでは他国の人を引きつける価値にはなりにくい。歴史、文化、発想のほうで勝負したい。ただ、やりすぎると日本は特別だという日本論に陥りがち。一瞬の驚きで終わってしまいます。

羽田 たとえば、新渡戸稲造は英語で日本の武士道について書き、英語圏の人々に大きなインパクトを与えました。西洋の騎士道にあたるものが非西洋のはずの日本にもあると言って、西洋だけが特別だという見方を批判したのです。でも、もとにある西洋対非西洋という世界観の枠組みそのものの変更を迫るには至っていません。

羽田 英語の達者な日本人が西洋の知識をもとに日本人の精神を紹介したわけですね。文化の交わりのなかでこの段階は必ず通過するはずですが、日本がグローバル社会でどんな役割を果たすかを考えたい今の段階では、これでは足りません。

羽田 西洋中心の考え方はおかしいというときに、ではどういう見方がよいのかを提案したわけではないですよ。いまなすべきは、西洋も知悉した上で、世界で起こっていることを理解できる新しい枠組みを提案することです。

羽田 新渡戸の時代、英語で書くことは英語圏の人が読むことを前提としましたが、今はむしろそれ以外の人が読むことを意味する。そういう時代に日本の発想で何を説明できるかを考えないといけませんね。

羽田 大学の話に戻しますと、日本語での教育をきちんとやると同時に、日本語の知の体系をどのように英語にして教え、理解させるかという点も重要です。東大がこれをうまくできれば、他大にはないアドバンテージになります。

羽田 実は、私がオックスフォードの授業でやっているのはまさにそのためです。私の強みは圧倒的に日本語が読めること。英語の文献を使って日本のことを教える



はみ出しトーク

1

羽田 日本の知が世界の知の構造を大きく変えた例はまだないと思いますが、私はグローバルヒストリーでそれを試んでいます。欧米と違う日本独特の世界観と歴史観で世界の歴史の新しい描き方を提示したい。そう簡単にはいきませんが。

羽田 80～90年代、日本的経営システムの長所は国外から注目されました。影響力があったのは確かで、今もトヨタの生産方式は世界に通用します。その強さの秘密の一端は教育にあるということで、日本の教育も注目されました。日本の追いつき型近代という今の私の研究テーマのなかで教育政策は宝の山です。様々なイデオロギーが入り込んでいる。海外の研究者も日本にいる研究者も気づきにくいことです。

羽田 日本語の「近代」をそのまま「modernity」に翻訳しても話が成り立たないという難しさがありますね。



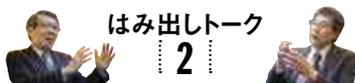
向ヶ岡ファカルティハウス (アブルボア)

今回の対談場所は弥生キャンパスにあるAbreuvoir (フランス語で「動物たちの水飲み場」の意)。アーティスティックな雰囲気のレストラン、木をふんだんに使ったバー、14部屋の宿泊施設、会議室を備えたファカルティハウスです。http://www.abreuvoir.co.jp

際、元の日本の現象や日本語文献との間にどんなずれがあるか、そのずれにどんな意味があるかは、重要なテーマとなります。そこを考えれば日本からの発想で何か生まれることになる。日本の大学は英語の授業を増やそうとしていますが、単純に教員を外国人に置き換えたらいいわけではないですね。たとえば、母国語でも一種の異文化として接するようなセンスが必要です。

羽田 その通りです。なかなかこの話は通じないことがあります。心強いですね。

誰も気づかないテーマなら ゆっくり丁寧に研究できる



はみ出しトーク 2

羽田 本日に国際的な大学とは、国際担当理事がない大学、international divisionのような部署がない大学だろうと思うんです。オックスフォードには国際本部なんてありませんよね？

荻谷 いかにも国際化を進めるかという部署だとすると、それはないです。

羽田 日本人とそれを分けている限り、国際的ではありません。でも、日本の大学の事務体制はそのように分かれています。

荻谷 ヨーロッパのほかの古い大学がTHEでランクの低いなか、オックスフォードやケンブリッジは英語圏の強みで何とか国際性が認められています。アメリカの大学は留学生は多いがドメスティックで、自国のためという姿勢が基本です。

羽田 アメリカで国際化と言っても英語以外の言語は考えないでしょう。「国際的」と「international」の意味も違いますね。

荻谷 海外で英語を使って日本を研究する人と、日本で日本語を使って研究する人とは、互いに気づかないテーマがあります。国際標準のスキームにデータをあてはめて日本語を語ろうとすれば、いかにいいデータを得るか、より進んだ統計手法を使えるかという速さの競争になります。でも、他の人が気づかないテーマを見つけると、ゆっくり丁寧に進めることができます。そうしないと英語ネイティブと同じ土俵では戦いにくいですね。——東大の長所ということではいかがでしょうか。

荻谷 たとえば、書庫に潜り込み、目当ての文献の近くの本をめくって初めて見つかるものがあります。これはデータベースでは探せない。充実した書庫がないと無理です。その意味で東大は日本についてはもとより西洋の知識や理論を日本語で体系化してきた知的資源の宝庫です。露天掘りのように、手に触れる形で知が埋まっている。ただ、残念ながら相当な日本語力がないと掘り出せない。国際的に通用する知にどう加工するかというプロデュースの問題があるわけです。

羽田 自分の本を翻訳する際、このままだと日本人以外には通じないな、と感じることがあります。翻訳を前提に書くのと、翻訳を前提にせず書くのとでは、書き方が変わりますね。

荻谷 英語で書く場合でも論文と本では書くスキルが違うことも重要な点です。

研究を正しく伝える論文と、一つの世界が映し出される本の差は、分野を問わずあります。英語論文の書き方と同様に、英語に翻訳される本のノウハウはある程度教えらるはず。そのプロデュース力が加われば、日本語で書かれた知の有効性はもっと強くなると思います。

羽田 実は今、翻訳されることを初めから意識しながら新しい本を書いています。日本語で書くと無意識のうちに日本語話者だけを対象にしてしまいます。それは誰かに言われないと気づかないことが多いと思います。

荻谷 知的共同体たる大学が優秀なエディターを雇って進めるべきことかもしれませんね。

——東大の順位がよく話題になる世界大学ランキングについてはいかがですか。

学生と教員が全員外国人なら 最も優れた大学になるのか

羽田 たとえばTimes Higher Education (THE) のランキングでは留学生と外国人教員が多いほど点数が高くなります。東大の評価が低い部分ですね。先日、THEの人と話した際、「学生と教員が全員外国人なのが一番いい大学か？」と質問したら、さすがに詰まっていました。ランキングは完全なものではありません。彼らはビジネスとしてランキングを作っています。それは自由にやればよい。ただ日本の政治家やマスメディアはそれを無条件に信奉しないでほしいと思います。

荻谷 外貨を稼ぐ産業としての高等教育は英語圏の強みですね。先日、初めてオックスフォードがTHEで1位になりました。いままで誰も何も言わなかったのに、今回は学長が全教員宛のメールに書いていましたよ(笑)。そういえば、日本政府が指定国立大学制度を進めていますね。ランキングを意識しているのかもしれませんが、英語圏でない日本が高等教育で外貨を稼ぐのは無理筋です。順位より日本の知がつくってきたコンテンツのほう国際貢献できるはずですよ。

羽田 国際担当の理事・副学長としては、東大の外国人留学生は30%程度がよいと思っています。10%だと少なすぎますが、30%いれば一つのマスとして存在できる。30%だと大学ランキングでは上位にいけませんけどね（笑）。

菊谷 私のいるカレッジでは地域研究の研究者が多いんです。中東研究でも中国研究でもあえてイギリスで行うのは、イギリスの歴史的な背景があるから。日本にも特徴的な背景があります。日本でこそ学べる重要な見方があることを知れば、外国の研究者が集まります。「日本を研究する」でなくてもいい。「日本を通して〇〇を研究する」人を増やせばいいと思います。

——最後に東大生や東大にメッセージをお願いします。

菊谷 東大に入ったということは宝の山に入り込んだということ。何か一つ人と違う強みを持つとその宝が生きてきます。そして、チャンスに恵まれた場にいるという自覚と責任を持つべきです。そうすると、いかに自分がそれを無駄遣いしているかがわかるでしょう。この宝の山をフルに活用してほしいと思います。

羽田 国際化が外国人と普通につきあえるようになることだとすると、教員の多くはすでにこれを実現しています。大学の執行部としては、教員同士の協力を束ねて大学同士の関係に高め、教育・研究を共同で進められるようにしたいです。交換留学、体験活動プログラム、サマープログラムなど、学生に国際的な体験を

Masashi Haneda

1953年生まれ。東京大学東洋文化研究所教授、同所長、東京大学副学長、国際本部長を経て、2016年より理事・副学長（国際担当）。専門分野は世界史。主な著書に『新しい世界史へ』（岩波書店）、『冒険商人シャルダン』（講談社）、『東インド会社とアジアの海』（講談社）、『イスラム世界の創造』（東京大学出版会）など。趣味はテニス、歌舞伎鑑賞。

してもらう様々な仕組みづくりを進めています。オックスフォード大学にもそのよきパートナーであってほしいと思っています。

菊谷 互いにとって意味のある連携相手でありたいですね。

はみ出しトーク

3

菊谷 私にとって最初の海外体験は、留学前の語学研究で行った夏のカリフォルニアです。もうあらゆることが楽しかった。その後の留学はノースウェスタン大学でした。

羽田 シカゴですね。

菊谷 博士課程を始めるというのに全然英語が通じず、苦勞しました。オーラルなんてとんでもない話で。日本人は読めて書けるというけど、それもダメでした。

羽田 私は最初がソ連。留学はイラン革命の余波でパリでした。冬に着いたら、寒いのに暖房がない部屋。器具を買いに行ったら何度言っても売ってくれず。小切手が現金かを聞かれていたと後で知りましたが、小切手なんて語は初耳で（笑）。

菊谷 日本で学ぶ語学では、そういうローカルな表現までは習いませんから。

羽田 ヨーロッパの冬はきついですよ。

菊谷 シカゴの冬もきついですが（笑）。

Takehiko Kariya

1955年生まれ。放送教育開発センター助教授、東京大学教育学研究科教授を経て、2008年よりオックスフォード大学社会学部・ニッサン日本研究所教授。専門は日本社会学、社会学。主な著書に『イギリスの大学・ニッポンの大学』（中公新書ラクレ）、『教育と平等』（中公新書）『教育の世紀』（ちくま学芸文庫）、『学力と階層』（朝日文庫）など。趣味はウォーキングとスイミング。

バイオリギングによる物理学で 野生動物の生態を解明

Yuuki Watanabe

渡辺佑基さん

国立極地研究所准教授

2007年農学生命科学研究科博士課程修了
(2006年度総長賞受賞)

▶ <http://www.geocities.jp/watanabeyuukionline/>



東大時代の
渡辺さん



バイカル湖にて、人生の
師・バラノフさんと。

おまけQ&A

南極で吹雪のときなどによくやる特技は？
「けん玉。けん玉協会南極支部で1級に認定されました」

特に気になっている動物は？
「ネズミザメ目のサメ。魚なのに体温が高く、遠くまで泳げます」

学生時代、
研究以外でがんばったことは？
「運動会自転車部競技班。
バイトも自転車便でした」

東大の後輩へメッセージを。
「コミュニケーションよりも自分なりにじっくり考えることが大事」

立川の極地研究所 1階ロビーにて。本誌が出る頃、渡辺さんは南極から帰還の途中です。

グンカンドリは3日間着地せずに飛び続ける、ウェッデルアザラシは1時間弱も潜り続ける、クロマグロは太平洋の端から端まで往復する、ペンギンとマンボウは泳ぐ仕組みが同じ……。気になる事実を著書などで広く紹介してきた渡辺さんは、動物を追いかけて世界中どこへでも行く生物学者ですが、グンカンドリとともに飛び続けたり、アザラシとともに潜り続けたりできる超人、ではありません。その武器はバイオリギング。野生動物の体に小型の記録計やカメラを取り付け、logを分析して、活動ぶりを克明に描き出すというものです。

「出会いは学部4年のとき。指導教官の紹介で極地研究所の内藤靖彦先生を訪ねたら、アザラシにカメラをつけるんだ、と目を輝かせて言われました。なんじゃそりゃと思いがながらも面白そうだな、と」

大学院に進んだ渡辺さんは、海洋研究所（現・大気海洋研究所）の宮崎信之先生の指導でロシアへ。数々の失敗を経て、3度目の渡航調査で、バイカルアザラシにつけた記録計をタイマーで切り離し浮上させて回収する画期的な手法を編み出しました。動物自体を捕獲してデータを回収する従来方式より飛躍的に効率のいいこの新方式の確立は、以後のバイオリギング界の発展に貢献するイノベーションでした。

「費用の面も含めて一介の大学院生に全てを託してくれた宮崎先生の大きさが、教員となったいまでは身に沁みてわかりますね」

「情熱大陸」という番組では「生物学界のインディ・ジョーンズ」と呼ばれたこともある渡辺さんですが、当初は力学が好きで、工学部志望だったとか。小さな細胞をずっと覗き込んでいるような印象が強かった生物学に、あまり興味が持てなかったのです。

「でも、教養学部時代にたまたま出た授業で、野外に出て動物の生態を調べる分野があると知り、それなら面白そうだと思って、生物学に進んだんです。当時は教養教育の意味などわかりませんでした」

創設以来140年にわたってリベラルアーツ教育を重んじてきた大学としては、その生体に記録計を取り付けて活躍ぶりを追跡し続けたい卒業生のお一人です。



ゲーム理論の本場を目指して 海を渡った経済学者

Takuo Sugaya

菅谷拓生さん

スタンフォード大学 准教授
2007年経済学研究科修士課程修了
(2004年度総長賞受賞)
▶ <https://www.gsb.stanford.edu/faculty-research/faculty/takuo-sugaya>

教 養学部後期課程から経済学研究科に進み、プリンストン大学でPh.Dを得た菅谷さんは、現在スタンフォード大学の経営大学院で准教授として教育・研究活動を行っています。専門はゲーム理論。ミクロ経済学の代表的な分野です。

「たとえば、同じ業界の企業同士はときに協力して価格をつり上げる行動、談合を行います。最近私が着目しているのは、1990年代に見られたビタミンに関する談合で成否を分けた条件。そうした状況下で長期的関係に基づいてどんな協調行動が見られるのかを数学的モデルで分析する研究を行っています」

教育活動の面では、博士課程の学生3~4人の論文指導を担当し、修士の学生約50人にミクロ経済の授業を行う立場。授業評定で「英語が聞き取りにくい」と書かれたことがあり、今でも必ず一度リハーサルをしてから授業に臨む、と准教授。言葉の苦労があっても海外に渡ったのはなぜでしょうか。

「ゲーム理論の世界ではプリンストン、イェール、スタンフォードが三本の指に入る研究のメッカだからです。研究科の先生や同期のほとんどがアメリカに留学していたという環境にいるうち、私も自然とそういう気持ちになっていました」

欧米での知名度が低いと言われがちな東大ですが、経済学の分野ではさにあらず。特にスタンフォードでは東大出身の理論経済学者が何人も活躍してきた歴史があり、その系譜に名を連ねる一人が菅谷さんなのです。海外生活が10年目を迎えた昨年には、プリンストン

東大時代の菅谷さん



初めてアメリカに行ったときの一枚。

おまけQ&A

東大時代にやっていたサークルは？
「フィロムジカ交響楽団です。2年生のときは副団長でした」

担当していたピオラについて一言を。
「バイオリンほど派手ではない点が自分に合っていると思う」

東大で好きだった場所は？
「赤門総合研究棟の院生部屋と、駒場のキャンパスプラザ」

アメリカの大学と比較して東大の特徴は？
「学生の質が、前者は上と下が厚く、東大は中間が厚いと感じます」

ン時代にともに経済学を学んだニューヨーク出身の女性と結婚し、ますますモチベーションが上がる准教授。日本の大学に戻るという選択肢はもうない？

「妻は日本語が全然できないので、日本に移り住むのは結構ハードルが高いですね。私の場合、あと2年でテニュアトラックの審査を受けることになるので、その結果次第ですが」

もし東大が菅谷さんと密な協調行動を取りたいならば、日本語が話せない人でも暮らしやすいキャンパス環境を2年以内に実現する必要がありそうです。

「学部では川人博先生の「法と社会と人権」ゼミでやったフィールドワークが印象的でした」



世界と日本をつないで違いをよとする社会に

Asami Matsumoto

松本麻美さん

アクティブ・コネクター CEO

2008年教育学研究科修士課程修了
(2008年度総長賞受賞)

▶ <http://jp.active-connector.com/>

日本で働きたい外国人留学生とグローバル人材を求める日本企業とをつなげる。それが松本さんたちのビジネスです。これまでに橋渡しをしたのは120件超。就職の手伝いだけでなく、企業の社員と留学生が自由に意見を交わす場を提供する試みも続けています。目指すのは、国境、文化などの違いをこえて一人ひとりがいきいきと働ける社会づくり。背景には、日本は違いをよとしない国だという松本さんの実感があります。

「でも、啓蒙しようなんて思いません。面白いことの裏には実はこんな多様な人たちがいた、という事例をたくさん仕込めば、日本社会も自然と変わっていくはず。私はその黒子になりたいんです」

熱量の高い早口が印象的な松本さんの来し方は間違いなくグローバルです。経団連の奨学金を得て都内名門校からイギリスの国際高校へ進み、カナダのマギル大学から東大へ。在学中にユニセフのガーナ事務所でインターンを経験し、外資系金融企業の一線でも働いた後、JICA（国際協力機構）の一員としてパキスタンで開発援助に尽力……。

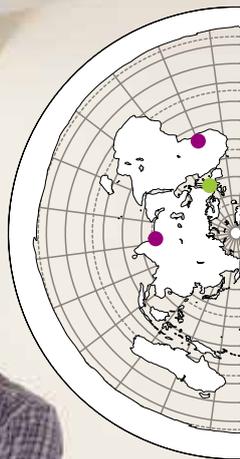
「世界の不遇子どもたちの助けになりたくて、13歳の頃、国連に入ろうと決めました。ガイド本を読んでto doリストをつくり、その通りやってきました。フランス語圏の大学に行ったのもフランス語が公用語の国連に近づ

くため。実は東大はリストになかったんですが」

しかし、松本さんは、教育学研究科で師事した先生の助言を聞いて行ったインドとガーナで、大きな体験をします。それまで自分が重要視していた2つのものが、実は全てではないと実感したのです。一つは学校教育、もう一つが国連でした。

「西洋の色が強い国連と非西洋の途上国では文化が違います。現代の学校教育も西洋文化の賜物だと言えるでしょう。異文化同士で何かをともに進めていくには、両方を知る人が積極的にハブになることが必要だと気づいたんです」

そのハブこそが「アクティブ・コネクター」。東大時代の恩師との話で生まれた造語を社名に掲げ、松本さんは今日も本郷で世界と日本をつないでいます。



おまけQ&A

国連に入ろうと思ったきっかけは？
「世界一不幸だと思っていたときに読んだ『マートブ』という本」

東大のキャンパスで好きなところは？
「恩師・白石さや先生の研究室。もうないと思うと淋しいです」

仕事以外の楽しみは？
「パン屋巡り。週末は『パン部』の活動をしています」

2020年までの目標は？
「日本にいる外国人留学生の登録率を50%にすること、かな」

東大時代の松本さん



文化人類学の調査で訪れたインドのJaisalmerで。

本郷三丁目交差点から至近のオフィスにて、マルチカルチャー感あふれる仲間たちと(写真中央が松本さん)。



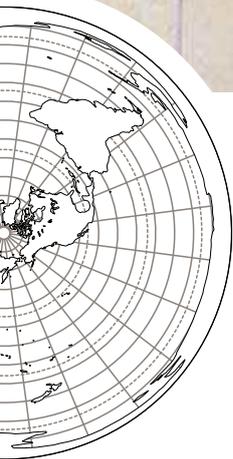
Yoshihiro Kawai

河合美宏さん

保険監督者国際機構 (IAIS) 事務局長
1983年教育学部卒業

▶ <http://www.iaisweb.org>

「教育学部での専門は日独の教育比較研究。天野郁夫先生や松原治先生に薫陶を受けました」



昔の河合さん



2006年頃の夏、バーゼル地区の対抗戦にて。

平凡なサラリーマンから 保険監督の国際機関トップに

150カ国の保険規制当局からなる保険監督者国際機構 (IAIS)。バーゼルに本部があるこの機構に事務局創設時から関わり、2003年からは事務局長として世界金融の秩序に貢献してきたのが河合さんです。

「最近力を入れてきたのが、Too big to failと呼ばれる世界的な影響力を持つ金融機関に対するルールの整備と保険会社に対する資本規制の国際基準設定です。リーマンショックを機に着手し、最終局面に入った段階です」

スイス生活19年、国際出張は年100日超という事務局長ですが、東大卒業後に国際的な仕事に憧れて入った東京海上では埼玉勤務。国内業務ばかりで全然国際的ではなく、大して英語もできなかったそう。転機は労働省出向時の海外出張でした。一つはパリのOECD。ここでは会社に入った時の志を新たにしました。もう一つは政策調査で訪れたロンドン。そこではある女性との出会いがありました。「先輩の紹介で休日に街を案内してもらったんです。海外の第一線でファンドマネージャーとして活躍する彼女がまぶしくて、大きな刺激を受けました。現在の妻です」

結婚を機に河合さんは奥様のいるパリに移り、INSEAD経営大学院でMBAを取得。OECDで国際金融などを担当後、ロンドンのCity Universityで金融規制の博士号を取得。請われてポーランド蔵相の顧問として働いていた頃にIAIS創設を知り、「天職だ」と直感、公募に応じて1998年に事務局長へ。その後、アメリカ代表との一騎打ちとなった選挙に勝って事務局長に就任。全会一致での再選を重ね現在4期目を迎えています。この間、IAISはG20首脳からも高く評価される国際機関へと成長しました。しかし、英語が得意でなかったのに国際機関の長として長年活躍するのは大変だったのでは？

「大変だったらこんなに長くやらないですよ。国際金融に貢献する仕事はやりがい大きい。すぐにうまくはいかないけど、言葉はスポーツと同じで、繰り返しているうちにできることが増え、それが楽しくなってくるんです」

中学からテニスでならし、高校では全国十傑に入った河合さん。東大庭球部ではラリーで先にミスしないことから「壁」と呼ばれたという紳士が、一瞬不敵な笑みを見せました。

おまけQ&A

東大で学んだことは？

「自ら調べ、自ら考える姿勢。主体性を持って学ぶ姿勢」

東大時代の思い出の場所は？

「法文2号館下。部のランニングの最後にスパートする場所でした」

後輩たちに伝えたいメッセージは？

「The world is global. We need a global solution.」

今後の展望は？

「機構は20年が区切り。後は若者に経験を伝える仕事をしたいです」

国益に資する大学から 世界の公共性に奉仕する大学へ 国連と東大。

多様性と卓越性を基盤にした知の力で世界の公共性に奉仕する大学と、193カ国の連携で地球規模の諸課題に取り組む国際機関。その関係には、本質的にも歴史的にも深いものがありました。日本の国連加盟60周年を機にあらためて近づきつつある両者の関係をたどります。

元国連職員の准教授が解説する「国連と東大」



井筒 節

Takashi Izutsu

教養教育高度化機構 国際連携部門
特任准教授

東京大学医学系研究科博士課程修了(PhD)。国立精神保健研究所を経て2006年に国連人口基金へ。2009年より国連事務局精神保健・障害チーフとして精神的ウェルビーイングと障害をSDGsに加えるべく尽力。2015年より現職。ディズニー・ミュージカル『リトルマーメイド』『アラジン』の翻訳も担当。

2014年、エマ・ワトソンUN Women親善大使(当時24歳)が国連で行ったスピーチが話題を呼びました。『ハリーポッター』や『美女と野獣』で知られるワトソンは、ジェンダー平等をめくり、「悪が勝利するには簡単で、善良な男女が何もしないだけでいい」との言葉を引用し、「私でなければ—誰が?今でなければ—いつ?」(UNIC訳)と述べ、全ての人に行動を呼びかけたのです。

二度の大戦後、平和の誓いの下に創設された国連は、2015年、創設70周年を迎えました。加盟後60年間、日本は、安全保障理事会非常任理事国に加盟国最多の11回選出され、30年に渡り第2位の抛出国であり続けています。東大との繋がりには特に深く、日本人初の国連職員である明石康元国連事務次長、高須幸雄国連管理局長をはじめ8人の歴代事務次長のうち6人が東大出身である他、天野之弥国際原子力機関事務局長等、多くの国連幹部・職

員を輩出し、外交官や市民社会の立場からも卒業生による多くの貢献がなされてきました。また、事務総長であったコフィ・アナンや潘基文が来校し学生と交流した他、国連訪問や講義を含む教育活動、最先端の研究成果の提供、学生による活動など、東大と国連を結ぶ様々な活動が続けられています。

2017年、元ポルトガル首相で前国連難民高等弁務官のアントニオ・グテーレス新事務総長が就任し、「世界中で多くの人々が、恐怖に駆られた決定を下している。(中略)こうした人々の不安を理解し(中略)相互に対する恐怖を相互に対する信頼に変えられるよう、力を合わせることで」と述べました(UNIC訳)。また、2030年までの国連の開発をめぐる優先目標「持続可能な開発目標(SDGs)」では、「誰一人取り残さない」ことが中心に据えられました。最も周辺化された人々にこそ目を向けることに世界中が同意したのです。今も、難民や避難民、女性、子供、移民、障害者、高齢者、先住民、そしてLGBTなどをめぐり、多くの国で深刻な状況が続いているからです。

47歳で第2代事務総長となり、和平日ミッション中に飛行機事故で亡くなったダグ・ハマーショルドが残した「国連は、人を天国に誘

うためではなく、人を地獄から救うために創設された」という言葉に、国連は立ち返りました。その上で、新事務総長が「恐怖」に注目したように、従来の軍事や金を中心とする見方から、人々の心のウェルビーイングに目を向け、それを指標とする社会を作り上げる必要があります。UNESCO憲章が「戦争は人の心の中で生れるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と謳った理念に、人類は追いつかねばなりません。

実現を担うのは、強い者と徒党を組むよりも苦しい状況にある者に手を差し伸べ、インフラや身体などの形あるものと共に感情や背景事情に目を配り、自らの文化も異なる文化も共に尊ぶことができる人たちです。東大に戻り、開講した国連に関するクラスに、そのような学生が沢山いることを頼もしく思っています。



国連との連携を進める取り組み

「国連アカデミック・インパクト」への参加

国連アカデミック・インパクトは、国連と世界の高等教育機関を結ぶパートナーシップ。SDGsなどの国連の活動をめぐり、世界各国の高等教育機関同士の連携、教育機関と国連との連携を促すことを目的としています。東大は2016年2月に参加し、「国連憲章の原則を推進、実現する」「性別、人種、宗教、民族を問わず、全ての人に教育の機会を提供する」ほか、10の原則を支持し促進させる取り組みを始めています。

全学自由ゼミ「国連と文化」

2016年8月に行われた、心の交流や文化・芸術を通して国連を捉えてもらうためのプログラム。レポート審査を経てニューヨークの国連本部を訪問した学生たちは、事務局、ユニセフ、国連開発計画(UNDP)、人道問題調整事務所などで働く国連職員から世界の現状と国連の活動の実際を学ぶ一方、現地の文化・芸術に触れる活動を展開。帰国後は国連への提言をまとめ、国連職員の皆さんに配布する予定です。



国連を支えてきた主な卒業生の皆さん

国連事務次長経験者

明石 康さん

国連事務次長
(広報局長・軍縮局長・人道問題担当)
▶ 教養学部出身

法眼健作さん

国連事務次長
(広報局長)
▶ 法学部出身

大島賢三さん

国連事務次長
(人道問題担当)
▶ 法学部出身

阿部信泰さん

国連事務次長(軍縮局長)
▶ 法学部出身

田中信明さん

国連事務次長(軍縮局長)
▶ 法学部出身

高須幸雄さん

国連事務次長(管理局長)
▶ 法学部出身

国連機関トップ経験者

内海善雄さん

国際電気通信連合事務総局長
(第17代)
▶ 法学部出身

松浦晃一郎さん

国連教育科学文化機関事務局長
(第8代)
▶ 法学部出身

小和田 恆さん

国際司法裁判所所長
(第22代)
▶ 教養学部出身

天野之弥さん

国際原子力機関事務局長
(第5代)
▶ 法学部出身

事務次長補等経験者(一部)

功刀達朗さん

国連人口基金事務局長次長・
国連事務次長補
▶ 教養学部出身

山崎 純さん

国連財務官・国連事務次長補
▶ 教養学部出身

広瀬晴子さん

国際工業開発機関事務局長次長
▶ 文学部出身

谷口富裕さん

国際原子力機関事務次長
▶ 工学部出身

沖大幹

国連大学上級副学長
▶ 生産技術研究所教授

現職の国連職員 (一部)

中野健司さん

国連総会・管理局総会課チーフ
▶ 法学部出身

根本かおるさん

国連広報センター所長
▶ 法学部出身

澤田泰子さん

国連事務局人道問題調整事務所
人道問題調整官
▶ 教養学部出身

堤 敦朗さん

国連大学グローバルヘルス研究所
コーディネーター
▶ 医学系研究科出身

大久保智夫さん

国連児童基金プログラムオフィサー
▶ 経済学部出身

国連に関する 学生たちの活動

国連と東大を結ぶ学生団体 UNiTe

左頁の「国連と文化」に参加した学生が国連本部で受けた刺激をもとに立ち上げた団体です。SDGsの広報を通じて国連と東大を結びつけることがモットー。2016年12月には駒場図書館で「東大×国連」と題した展示を行い、アフリカの蚊帳や、職員がかぶる帽子など、国連活動の現場で使われた各種現物が注目を集めました。



国際会議のシミュレーションを 行う模擬国連駒場研究会

国連の会議を模した活動を行うのが模擬国連。各参加者が一国の大使として政策を提案し議論するもので、60カ国以上で行われています。駒場を舞台にする模擬国連駒場研究会は2017年で10期目を迎えたサークル。2016年10月には国際連携部門と共に「国際機関合同アウトリーチ・ミッション講演会」を開催。9機関の人事担当を招き、国連で働くことの実際を学生が学べる貴重な機会を提供しました。



国連は、6つの主要機関と、その下に位置する様々な機関、連携関係を持つ専門機関などから構成され、そこで働く職員も様々です。国連関連機関で働く約3.2万人の専門職以上の職員のうち、日本人は790人で全体の2.5%（2013年現在・国連資料CEB/2014/HLCM/

HR/21）。国別の拠出額は2位で拠出人数は7位です。出身大学別の数字は不明ですが、「ICUや上智大学と共に東大出身者が多い」（井筒先生談）とのこと。明石さんを筆頭に、これまで多くの東大出身者が国連を支えてきました。そしてこれからも。

全学自由ゼミ 「国連とインクルージョン」

2016年9月からの Semester で行われた授業。SDGsの最大テーマ「誰一人取り残さない」(Leaving no one behind) を念頭に、マイノリティの中でも取り残されがちな精神障害・知的障害をめぐるインクルージョンについて、オムニバス講義とグループディスカッションを行いました。関連する国際機関のほか、日本HIV陽性者ネットワーク、精神障害者当事者会などからも講師をお迎えしました。



TIME誌が「世界の発明50」に選んだHCI研究 Emi Tamaki

人とコンピュータの相互関係を探るHCI (Human Computer Interaction) という分野があります。2011年9月、大学院生時代の玉城さんが発表したHCI技術を、米誌「TIME」が「世界の発明50」の一つに選びました。

その名は「ポゼストハンド (Possessed Hand)」。リストバンドから腕の筋肉に電気刺激を与えることで手指の関節を自由に動かす装置です。装着してみると、己の意志とは関係なく、電気刺激と同時に指がビクンと動きまわります。整骨院の電気治療器にも似た風変わりな装置が生まれた背景には、高校時代の入院体験がありました。

「心臓病の治療でした。病室って、ヒマですね。それは、外の世界で人生経験を得られないから。

病室にいながら外の世界を体験できればいいのに、と考え始めたんです」

たとえば、日本にいる我々はアフリカにいる人がいま見聞しているものを体験できませんが、スマートフォンなどの技術で生中継すれば、その体験を共有できます。視覚や聴覚において可能なことは、HCI技術があれば触覚でも可能かも……。その思いを具現化した装置は、筋肉だけでなく、医学、工学、脳科学など様々な研究者の意欲を刺激しました。

「当時、研究室の仲間が東大のベンチャーキャピタル (UTEC) に通っていたのに影響されて、私もインターンを体験し、人生にとって重要な刺激を受けました。

研究を加速させるにはベンチャーによる普及が必要だ、と気

づいたんです」

そして2012年に起業したのがH2Lです。名前はHappy Hacking Lifeの略。ハッキングというと、システムに不正に侵入するようなマイナスのイメージがありますが、本来そうした意味はないそうです。

「ライフハックという言葉があるように、「とんち」に近いイメージです。少し風変わりな技術で幸せな生活を実現する、という思いを社名にこめました」

何かに体を操作されることを可能にする技術には一抹の違和感も漂います。しかし、それを補って余りあるほど、人間の感覚と幸せを拡張してくれるものになるに違いない。その信念が玉城さんの手を今後も動かし続けます。

玉城絵美さん

H2L株式会社創業者、
早稲田大学人間科学学術院助教
2011年学際情報学府博士課程修了
(2011年度総長賞受賞)

▶ <http://h2l.jp/>

おまけQ&A

研究室の厩本純一先生(情報学環)の言葉で印象的だったのは?
「ないものはつくろう」「十歩先でなく一歩先を目指そう」

東大のいいところは?
「すぐ近くに様々な分野の研究者がいたこと」

東大の後輩へメッセージを。
「借越ながら、専門以外の分野を体験すべきだと思います」

Possessed Handが発展した
Unlimited Handとは?
「amazonなどで販売中の触感型ゲームコントローラーです」

東大時代の 玉城さん



卒業直前、2012年頃の一
枚。

レインボーブリッジに臨むオフィスにて。左手に装着しているのがUnlimited Hand。



日本の登山を観光業と融合させる 「セブンサミッター」

Atsushi Yamada

学生時代、山田さんは世界七大陸の最高峰に登頂し、当時の世界最年少記録を更新しました。喘息持ちの少年が山を目指したきっかけは、人と競わない運動がしたかったことと、冒険家・植村直己さんの著書『青春を山に賭けて』を読んだこと。英語は苦手でしたが、より高い山を目指してやまない山男が、授業そっちのけで働いた登山ガイドの稼ぎを使って海外に出るのは、必然でした。

「サガルマタは「大空の頭」、デナリは「偉大なもの」など、現地での呼称とその意味を知るにつけ、高山が敬われているのを感じました。山の魅力は言わずもがなですが、観光で現地の人や文化に触れるのも楽しかったですね」

中退して登山ガイドになる道も考えましたが、より多くの人に山の魅力を伝えるには大きな仕組みが必要だと気づき、様々な産業を見

ようと外資系コンサルタント企業に就職。仕事は楽しくて「アドレナリンが出まくり」でしたが、3年後に転職が訪れます。北海道トムラウシ山で8人が犠牲になる遭難事故でした。

「衝撃でした。こういう事故を防ぐためにこそ自分がいるはずなのに、との思いが湧き上がりました。何も考えず、翌日には退社の決意を上司に伝えました」

何をすべきかを模索する日々のなか、ヒントになったのは「レジャー白書」。経済的理由から登山に踏み出せない人の多さを証明する調査結果にピンときた山男は、海外にあって日本にはなかった登山客用の用具レンタル業を始めました。アウトドアベンチャー企業の誕生です。ミッションは登山人口の増加と安全登山の推進。そのために必要となる道具と情報ときっかけを、現在は用具レンタル、フリーペーパー、ガイドツアーの3本柱で提供しています。

山田 淳さん

株式会社フィールド&マウンテン代表取締役

2006年経済学部卒業
(2002年度総長賞)

▶ <http://www.field-mt.com/>



おまけQ&A

いまままでにガイドで富士山に登った回数は?

「300回ほど。うちのウェアを着た人を見るとニヤッとします」

世界の山と比べて日本の山の魅力は?

「四季があり、いつ登っても違う表情が楽しめること」

東大のキャンパスで好きな場所は?

「御殿下体育館。ボルダリングウォールでよく練習しました」

東大のいいところは?

「群れないところ。個が強く、あまり組織に縛られないところ」

東大時代の
山田さん



世界で初めてサガルマタ頂上でノートPCを起動。

ウェアや靴やストックなどの登山用具が並ぶ、やまどうぐレンタル屋新宿にて。

「日本は山を観光資源としてもっと生かすべき。生産業では海外に進出する必要がありますが、観光はそうせずに世界と戦える数少ない産業だと思います」

世界の山を体感したからこそ日本の山の魅力がわかり、コンサルタントとして様々な産業を見たからこそ観光業の強みが俯瞰できている山田さん。ただの山男じゃありません。

シドニーで 研究者になった 元「東大の琴欧州」

Petr Matous

ペトル・
マトウシュさん

シドニー大学准教授 (Senior Lecturer)

2007年工学系研究科博士課程修了
(2005年度総長賞受賞)

▶ <http://sydney.edu.au/engineering/people/petr.matous.php>

留 学生時代に相撲部の主将として活躍し、「東大の琴欧州」と呼ばれたチェコ出身のナイスガイ、それがマトウシュさんです。蓬髪から坊主頭に変貌しましたが、鍛え抜かれた肉体は健在。汗と土が染み込む年季入りのまわしをつけた姿から、後輩に胸を貸すぶつかり稽古の激しさから、「偉大で、容赦ない先輩でした」という後輩のつぶやきからも、世界選手権 5 位、東日本学生大会 3 位 (体重別) になった当時の活躍は十分に想像できます。しかし、高校までやっていた競技はバレーボール。もともと日本の国技がやりたかったわけではありませんでした。

「チェコの大学時代、廊下に貼られた東大の勧誘ポスターを見たのが来日のきっかけ。東大に留学した先輩も勧めるし、違う文化の国で勉強するのが面白いかな、と思ったんです」

転機は、東大に来て、今はなき弥生寮に入ったこと。寮の先輩が相撲部で、部員が少ないから、と誘われたのです。試しに出た大会で勝利の歓びを味わい、そのまま部員に。

稽古を重ね、鋭い立ち会いと突っ張りを磨いた後、鉛筆を挟める腹筋と、初の留学生主将が誕生しました。

「単に他に人がいなかったからですよ (笑)。相撲には、技術を磨けば大きい相手にも勝てる面白さがあります。他の格闘技と違って相手を痛めるのをよしとしないのも私には魅力的でした」

相撲部に入ったおかげで、日本にいないとできないことや、他の留学生とは違う日本とがっすり組み合うことができたと言っている元主将。シドニーで准教授となった現在も相撲への情熱は健在で、昨年末に参加したオセアニア大

会では見事優勝を果たしました。しかし、一方で昔とは違う感覚もあるのだとか。

「日本では全然抵抗がなかったのに、なぜか海外ではまわし姿が恥ずかしくて……。その大会はスパッツを付けて出ました」

今回、久々に相撲部の稽古に参加し、昔の感覚を思い出したであろうマトウシュ先生。東大は、シドニーの教え子の皆さんから次世代のマトウシュさんが輩出することを願っています。

歴代部員たちのまわしが壁際に掛かる駒場キャンパスの格技場にて。

東大時代の
マトウシュさん



相撲部のサイトに残る学生時代の一枚。蓬髪です。



おまけQ&A

東大時代のベストバウトは?
「欧州選手権の王者を突っ張りで破った2006年世界選手権」

東大で影響を受けた先生は?
「研究では小澤一雅先生。相撲では匠の技を持つ新田一郎先生」

どんなことを研究していますか?
「途上国のインフラ運用を社会ネットワーク理論で分析しています」

シドニー大学と比べて感じる東大の特徴は?
「中央集権ではなく、個々の教授や研究室の自由度が高いこと」

東南アジア仕込みの人工知能を日本でビジネスに

Miku Hirano

在 学中に起業した会社をミクシィに売却し、卒業後はフキダシ付きの自撮り画像でやりとりするアプリを東南アジアで展開してきた、国際派起業家の平野さん。「去年は三社祭のためだけに帰国した」という浅草育ちのご本人によると、現在力を入れているのはAI（人工知能）を活用するビジネスです。「AIというと、囲碁で名人に勝つとかクルマの自動運転とか、あまり身近ではない、大がかりな印象がありますよね。私はAIをもう少し生活に即したものに、さくっと使えるものになりたいんです」

平野さんが注目するのは、メッセージのやりとりを自動で行うチャットボットというプログラム。たとえば人材紹介業界で、

応募者と企業の面接日時を決めるには、何度か双方の都合を擦り合わせる作業が必要ですが、これをチャットボットで代替するビジネスは、すでに収益を上げています。また、医療の現場では、AIと応答を繰り返すことで、あり得る病気の選択肢を狭めることが可能。

ブランド品売上の現場では、AIとの応答を経れば経験の乏しい店員でも二セモノを見分けることができます。

「人が面倒に思う仕事の多くは、特定の作業を大量にこなすのが得意なAIで置換できます。」

仕事なくなる恐怖も指摘されますが、やる気を蝕む仕事を減らす価値のほうが大きいはず。私にとっては家事もその一つですが」

学生の頃にバックパッカーとして訪れた東南アジアで「キチキチした」日本とは異なる「カオスな感じ」に惹かれた平野さん。これまでの4年間は研究もマーケティングも海外で行ってきましたが、この事業の開始にあたっては母国に拠点を設けました。それは、AIのマーケットを広げるには日本が最適だと読ん

だから。

「石器、火、電気など、これまでいくつかの重要な技術が人間を進化させてきました。私はAIもその一つだと思います。AIで人類を前に押し進めたいんです」

三社祭の神輿の担ぎ手が人間以外になることは今後もないでしょうが、AIが生活のあり方を変える時代はそう遠くないでしょう。その変革の担い手は、やはり平野さんのような人間です。

東大時代の平野さん



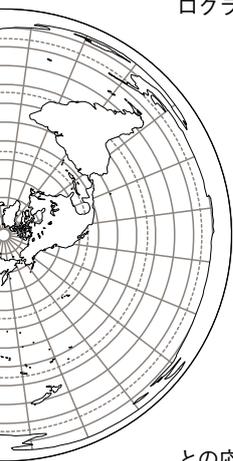
大学院学位記授与式の際、記念に撮った一枚です。

平野未来さん

Cinnamon CEO

2008年工学系研究科修士課程修了

▶ <http://www.cinnamon.is/>



おまけQ&A

高校時代に憧れた職業は？

「パイロット。でも身長が足りず断念。その後ネット中毒に(笑)」

ファッションのこだわりは？

「ワンピースしか着ません。上下の組み合わせを考えるのが面倒で」

東大のキャンパスで好きな場所は？

「安田講堂前にあるベンチ。都内じゃないみたいで落ち着きます」

東大の後輩へメッセージを。

「学生のうちに起業しましょう。学生同士2人がお勧め！」

「仕事もほとんどこれで」行うというスマホを手に、学生時代もよく来た上野公園にて。



世界の賢人15人による 東京大学への 39の提言

第12回「プレジデント・カウンシル」ダイジェスト

11月25日、本郷キャンパス伊藤国際学術研究センターにおいて、第12回プレジデント・カウンシルが開催されました。今回は15名のメンバーが参加し、五神総長による基調講演“The University of Tokyo in a Changing World”の後、本学が国際社会で果たすべき役割や、産学協創の国際的拡充などについて、活発な議論を繰り広げました。議論のなかで発せられた東大に対する提言のなかから一部を抽出してお届けします。はたして、東大の進むべき方向性とは？

今回参加した カウンシルのメンバー

1 チュラポーン王女殿下
タイ王国第三王女殿下
チュラポーン研究所所長

2 リタ・コルウェル氏
メリーランド大学、
ジョンズ・ホプキンス大学
特別名誉教授

3 ルシアーノ・コウチーニョ氏
カンピーナス大学
正教授

4 ビル・エモット氏
著述家・コンサルタント

5 ビクター・フォン氏
フォングループ会長

6 フレデリック・ヒルマー氏
ニューサウスウェールズ大学
名誉学長

7 ハッサン・ジャミール氏
アブドゥルラティフジャミール社
副社長

8 小宮山宏氏
三菱総合研究所理事長・
東京大学第28代総長

9 黒川清氏
政策研究大学院大学客員教授

10 ステファン・ノレーン氏
元駐日大使

11 ペール・ヌーデル氏
元財務大臣

12 カリ・オラビ・レイビオ氏
ヘルシンキ大学名誉学長

13 許智宏氏
元北京大学学長

14 ハイメ・オグスト・ゾベル・デ・アヤラ氏
アヤラコーポレーション
最高経営責任者

15 吉野洋太郎氏
ハーバード大学ビジネススクール
名誉教授

プレジデント・カウンシルとは？

世界各国から招聘した識者をメンバーとする、総長の諮問委員会。2004年の法人化以降、より一層の国際的地位向上を迫られる中、東大の進むべき方向性を議論し運営に活かすため誕生しました。2006年11月の発足以降、年1～2回の頻度で開催され、今回で12回目。メンバーには現在17カ国25人の有力企業人、学識経験者、国際機関関係者などが名を連ねています。

議題1

国際社会に対し、 東京大学が果たすべき貢献とは？

機関同士が国を越えて問題解決に協力すべき。①

どんな人生を送りたいか、
世界に何が貢献できるかを考える場であるべき。⑤

重要な社会的・政治的課題に取り組むよう
学生と教職員に促すべき。⑮

世界的な問題は大学単体では解決できないので、
協働の方法を考えるべき。⑮

課題解決の研究のみでなく、大発見につながる
基礎研究も大事にすべき。②

未来社会に関する研究所を設立すべき。⑧

知が分散する時代に
表現と研究の自由の砦として機能すべき。④

女子学生を増やすとともに、
学術界でより多くの女性の活躍を推進すべき。②

知の創造と共有の拠点から
問題解決の拠点へと歩みを進めるべき。⑦

倫理教育、学部教育、社会の支持が得られる教育を。⑮

領域横断のプロジェクトを推進すべき。⑩

気候変動の分野でも重要な役割を担うべき。⑩

投資機関が目にする
国際研究プロジェクトで積極的な活動を。⑫

SDGs達成のため、排除ではなく包摂を進め、
産業を非営利の活動に巻き込むべき。③

喫緊の課題である気候変動問題の解決に
複数分野の知を統合すべき。③

高齢化が加速する日本のシルバーマーケットで
チャンスを掴むべき。⑤

保護貿易主義が強まるなか経済学部が貢献を。⑭



第12回プレジデント・カウンスル プログラム

- 9:30 開会・基調演説「変化する世界と東京大学—その使命・改革・課題」 総長 五神真
 9:45 議題1: 国際社会に対し、東京大学が果たすべき貢献とは?
 11:15 議題2: 東京大学が産学協働を世界規模で展開するには?
 13:30 「大学院教育の改革」執行役・副学長 小関敏彦
 13:45 「社会・人文分野での取り組み」経済学研究科・副研究科長 松井彰彦
 14:40 「理学・工学分野での取り組み」理学系研究科・副研究科長 山内薫
 15:20 議題3: 世界で活躍できる人材をどのように育成すべきか? 大学院教育の国際化戦略とは?

東京大学は……

議題 2

東京大学が産学協働を世界規模で展開するには?

予算・人員など継続的連携を支える仕組みの整備を。⑥

広報を通じ、
産業との連携が評価される風土を醸成すべき。⑥

産業に扉を開く良いビジネススクールのように、
オープンな環境を作るべき。⑥

教育と研究だけでなく
「イノベーション」も重視すべき。⑥

まず国内の多国籍企業と適切な部局や研究室を繋げ、
後に海外に展開すべき。⑦

大学は金を使い知を生むが、
産業は知を使い金を生むという差異を意識すべき。⑦

社会的意義のあるプロジェクト(スポーツ科学等)を通じ、
協働の生態系を構築すべき。⑧

学生だけでなく
教職員の交換プログラムも増やすべき。⑧

グローバル化やアントレプレナーシップの
知見を民間と共有すべき。⑨

イノベーションを起こし、
民間も積極的に関わりたいと思うようにすべき。⑨

MITとランボルギーニのように様々なレベルの
交流プログラムを用意すべき。⑦

議題 3

世界で活躍できる人材をどのように育成すべきか? 大学院教育の国際化戦略とは?

複数分野に通じた「T型人才」を育成すべき。②

社会に出る「訓練」でなく、人間の「教育」として、
倫理に触れる機会の提供を。⑥

本質の評価のためのスキル修得の場を提供すべき。⑦

政府にアドバイスをを行い、
科学的事実に基づいた政策決定の支援を。⑫

総長が日本の代表として
これから進むべき道を明らかにすべき。⑪

学生調査で既存プログラムの妥当性を再検討し、
大学院プログラムを拡張すべき。②

企業経営や公的サービスの教育の強化を。⑮

専門化は科学の要素のひとつだが、
その知識の実践・応用についても教えるべき。⑤

学生を学際的なプロジェクトに参加させ、
責任を与えるべき。④

優秀な学生が多いので今後の議論には
学生も参加させるべき。⑦

世界における公的機関のあり方が急変する今、
学生の要望や行動を調査すべき。⑤

今回のプレジデント・カウンスルは、世界各国でのテロやイギリスのEU離脱、トランプ大統領の誕生など、国際社会が大きく揺れ動く中で東京大学は世界に対して何ができるのか、ということが改めて真剣に問われる場となりました。特に気候変動の話題は喫緊の課題として幾人もの口に上りました。こうした貴重な提言をまとめ、東京大学が世界における「問題解決の拠点」(base of solutions)となるための努力目標として、会の最後には5つのアクション・プランが示されました。現在の体制でのプレジデント・カウンスルは今回が最後。平成29年度からはUTokyo Global Advisory Boardとして、メンバーを変更して新たに生まれ変わる予定です。東京大学、そして世界のより良い未来のために、新体制に期待しましょう。

アクション・プラン

東京大学は

1. 「指定国立大学法人」として認定を受ける。
2. 次回の会議における女性メンバーの数を増やし、学生・教職員の男女比を是正化するために一層の努力を行う。
3. イノベーションと共同学習を加速するため、民間部門との接点を増やす方策について検討する。
4. よりよいコミュニケーション戦略を策定し、自分たちの活動について世界に知らせるためのチャンネルを発掘するとともに、既存の連携先の活用、新しい連携先の開拓によって、緊急性の高い問題を解決する。
5. 学生に国際的な挑戦の機会を提供することで、彼らを支援し、将来、世界で出会うさまざまな課題に立ち向かえるよう、さらに教育に力をいれる。



未来の夫と出会うための 世界52カ国旅行を敢行

Wakako Tokuda

徳田和嘉子さん

ネクスト・キャピタル・パートナーズ株式会社
マネージャー

2007年法学部卒業

▶ <http://www.nextcp.jp/>

おまけQ&A

世界一周の旅を決意したもう一つの理由とは?

「若い頃バックパッカーだった母の影響は確実にあります。」

世界一周の費用は 어떻게 工面しましたか?

「在学中の著書『東大生が教える! 超暗記術』の印税を使いました」

法学部時代に印象的だった言葉は?

「法学部長が言った『群れなさい』。私も後輩にそう言いたいです」

子育てがひと段落した後にはやりたいことは?

「大学院に入って、法とエンタメの融合などを研究したいですね」

机上是旅先の記念品。ムルシ族の木彫りは下唇にはめる木皿が大きいほど美人とされるそう。

東大時代の
徳田さん



4年次、バスケットボール部の1枚@駒場体育館。

アで出会ったイギリス人男性は、後に日本に来てくれましたが、仕事で忙殺される私を見て帰国しました。ヨルダンで出会った長瀬智也似のベドウィン族男性には、「ベドウィンがベッドインできるのは砂漠だけ」とダジャレで断られました」

夫は見つからなかったものの、人に優しくすることを重んじるイスラム教がムスリムの生活のエンジンだという

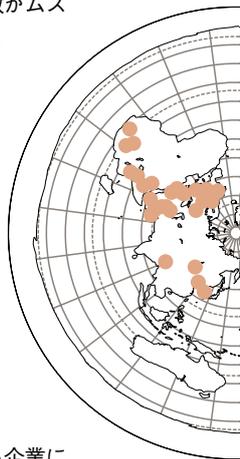
発見と、家族の価値は万国共通だという発見があったと徳田さん。命の危機も幾度かくぐり抜けた長旅の後、外資系証券会社、環境・エネルギー分野の投資会社を経て、現職へと到りました。

「主に目を向けているのは経営が厳しくなった地方の中小・中堅企業です。事業再生を図る企業に投資しながら、スタッフが出向して経営に携わる「ハンズオン投資」を展開しています」

2012年にCROSS FMという福岡の放送局に赴任し、2013年に業界では珍しい20代の社長となった徳田さんは、再生可能エネルギーだけで電力を賄う局として再建する流れをつくり、2015年6月に退任。2016年4月からは料理教室を全国で運営するホームメイドクッキングという会社の再生に取り組んでいるそうです。ん? よく見ると8ヶ月ほど間が空いていますね。

「産休を取っていました。旅で家族の大切さを再確認し、自分も子どもが欲しいと思ったんです。休日にゆっくり遊ぶのが今の楽しみです」

他の女性とくっつけようと世話を焼くうちに「ミイラ取りがミイラになって」結婚したお相手は、2番目の会社で同僚だった年上の男性。日本人だそうです。



未来の夫を探すため、アジアからヨーロッパ、中東、アフリカ、南米と世界52カ国を周遊し、気になる男性に「Are you my friend?」と声をかけまくる。そんな痛快な8ヶ月間を経験したのが徳田さんです。東大女

子がモテないことを実感し、危機感から海外に活路を求めたのです。途中で数えなくなりましたが、ヨーロッパの時点で声かけ人数は100を超えていたそう。果たして成果は? 「結婚の話に進んだのは2人です。ラトヴィ

官民連携のファンドで世界の感染症撲滅に挑戦

13歳の頃、住んでいたエジプトで象皮病患者の姿に遭遇、感染症が人生に及ぼす影響に震撼して医師を志したという経験を持つスリングスビーさん。ブラウン大学時代にはトリアスロンの米国代表として活躍し、五輪出場をあと一步で逃したのを機に競技人生にきっぱり別れを告げた後、本格的に医学の世界へ。卒業後に選んだのは、日本の大学でした。

「鍼灸などの東洋医学に興味があり、中国か日本で学びたかったです。家族ぐるみで親交していた家庭が京都にあったので京大に進み、その後、師事する先生のご縁で東大にきました」

公衆衛生について学ぶうち、患者を診療する臨床医以外にも医学の知見を活かして多くの患者にインパクトを与える道がある、との思いが強まっていったというスリングスビー

さん。臨床医にも未練はあれど、臨床も公衆衛生もではどちらも半端になる。やるなら100%しかない、とここでもきっぱり決断した元アスリートは、製薬企業のエーザイに入社。途上国向けの新薬開発などのプロジェクトを率いるうち、一つの思いに到ります。

「日本には様々なイノベーションがあるのに、途上国の感染症対策にはあまり活かされていなかったんです。日本の優れた創業技術をグローバルヘルスのために役立てるべきだと思いました」

官民パートナーシップで途上国向けの新薬開発に挑む基金の着想を得たスリングスビーさんは、製薬企業5社、厚生労働省、外務省、ビル&メリンダ・ゲイツ財団にも精力的に働きかけました。そして、2013年4月、努力の種はGHIT Fundという形に結実。当初100億円規模だった基金は現在140億円まで成長し、10だったパートナー&スポンサー数は26まで拡大しています。イベルメクチンに続く世界的な新薬の登場ももうすぐ？

「そう簡単にはいきませんが、現在、マラリア、結核などが蔓延するアフリカ、南米の6カ国で臨床試験が進んでいます。2~3年のうちに画期的な新薬をお届けしたいですね」

カメラ目線が少し苦手だというCEOによる、栄誉の発表会見が楽しみです。

おまけQ&A

東大の長所は？

「国際的な共同研究がやりやすい点。慣れた職員のカも大きいですね」

東大キャンパスで好きだった場所は？

「本郷の御殿下体育館。よくジムとプールを使いました」

仕事以外の楽しみは？

「サーフィン。行くのは宮崎、茨城、千葉など」

東大に言いたいことは？

「国際人を世界に輩出すれば日本が世界をリードできます」

では国際人とは？

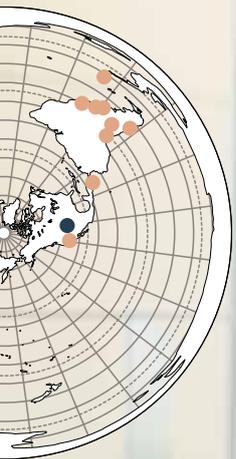
「世界中のいろいろな人と接する力がある人、ですね」

BT Slingsby

スリングスビー BTさん

グローバルヘルス技術振興基金 (GHIT Fund) CEO
2007年医学系研究科博士課程修了

▶ <http://www.ghitfund.org/>



国連職員として国際航空の秩序と発展に尽力

Tetsuya Tanaka

田中鉄也さん

国際民間航空機関事務局 (ICAO)
航空運送局気候変動課長
1999年工学系研究科修士課程修了
▶ <http://www.icao.int>

国際民間航空機関は国際連合の専門機関の一つ。航空機の安全基準、飛行ルート、パイロットや整備士の資格、滑走路整備のルール、航空管制、騒音レベルなど、各種の国際ルールを策定しています。その目的は国際航空の秩序ある発展。191もの参加国による議論をサポートする事務局で田中さんが主に携わるのは、航空の環境対策、特に気候変動対策です。

「安全に関する話なら大方が一致しますが、環境対策に対するスタンスは国により大きく分かります。多様な立場に耳を傾けつつ議論を前に進めることが、事務局として苦勞する点であり、やりがいでもあります」

少年時代から飛行機好きだった田中さんは、自然な風向きで東大の航空宇宙工学専攻へ。本人の特長を知る恩師の勧めもあって卒業後は運輸省に進み、4省庁を統合するプロジェクトを担当。国内外で気候変動問題に取り組む気運が高まるなか、国際航空のCO₂排出削減世界目標を策定しようとの提案が評価される形で、2008年にカナダのICAO本部に移ったのです。

「2016年の総会で気候変動対策スキームの全体合意にこぎつけました。今後は詳細なル



国連本部にて。壁に掛かっているのはパン・ギムン氏ほか歴代事務総長の肖像です。

おまけQ&A

日本の省庁とICAOを比べて感じることは?
「文書による合意形成・情報共有の点では前者が数倍上だと思います」

東大時代に熱中したことは?
「サークル「スポーツ愛好会」で取り組んだバレーボール」

東大時代の恩師から学んだことは?
「難しい話を簡単に説明することの重要性。社会に出て痛感します」

プライベートでの展望は?
「同世代では北米で有数らしい息子のチェスの力を伸ばしたいですね」

東大時代の田中さん



いつ頃のものかは不明とのこと。



ルを決め、世界中を飛び回って周知しなければいけない。従来通り、風を感じたら機を逃さず、常に目の前に全力投球するだけです」

CO₂だけでなく、実は自分の体重の削減も必要だという田中さん。スキームの運用が始まる2019年には、世界全力行脚の結果としてその目標も達成していることでしょう。

留学生から見た東大

海外から東大に来た留学生32人に、日本と東大を選んだ理由を訊ねました。彼らから見た日本・東大はどんな姿だったのでしょうか。

※「学内広報」連載「留学生さんいらっしゃい」より抜粋。

🇯🇵 自然との調和を重んじる日本のカルチャー、特に建築に興味があり、建築の世界でベスト5に入る東大で学びたかった。

🇯🇵 急速に有数の技術大国へ成長した日本に興味があった。知名度の高い大学に進んだほうが後々有利だと思い東大へ来た。

🇯🇵 子供の頃から日本に興味があ

り、大学で日本語と歴史を勉強して、留学を決めた。東大は日本でトップの大学に憧れたから。

🇯🇵 TVの「ドラゴンボール」で興味を持ち、アジアの美術史や日本語を勉強したかった。先生の推薦もあり、交換留学制度で東大へ。

🇯🇵 子供の頃アニメを見て憧れ、評判の高い日本の技術を学びたい

と思った。東大はノーベル賞受賞者もいる日本一の大学だから。

🇯🇵 挑戦的な生き方に憧れ、高校時代に岐阜に半年留学して好印象があった日本へ。東大は先生がPEAKを勧めたから。

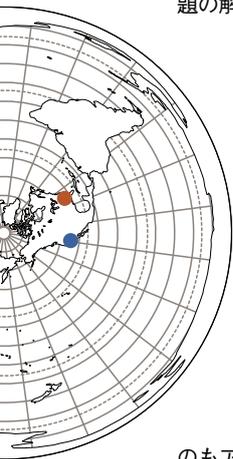
🇯🇵 東大は日本一の大学で、通っていた大学と提携していたから。高校で埼玉にホームステイした際

世界のグーグル利用者向け サポート業務を統括

Shie Lundberg

検 索エンジンに加え、Gmail、Googleマップ、Google Chrome、Android、Google Play、Pixelといった様々なサービスや製品を展開しているGoogle。世界各地のユーザーに対するサポート業務をシリコンバレーの本社で統括しているのが、ランドバーグさんのチームです。

「コールセンターを通じたカスタマーサービスを20ヶ国語以上で提供しています。電話やEmailに加え、チャットやTwitterも使います。その内容は、商品説明や使用方法、技術的問題の解決、販売予約まで多岐にわたります」



神奈川で生まれ、3歳頃までミャンマーで育った後、帰国。地元の高校が始めた交換留学制度の一期生に選ばれ、ニュージーランドで1年を過ごしたランドバーグさん。その後、MBAを取得したのも、国際結婚で移住したのも、投資銀行やeコマースの会社で働いたのもアメリカでした。現在の活躍ぶりが目に浮かぶ足跡ですが、「本郷キャンパスの雰囲気が気に入って」選んだ東大での4年間は、少し毛色が違ったようです。

「留学の反動で日本的なものがやりたくなり、合気道部に入りました。「合気学部卒」と言っているほど部活中心の生活でしたね」

シリコンバレーでは、ハッカソンの審査員

東大時代の
ランドバーグさん



1993年の新歓演舞（女子護身）の様子。

Googleの東京オフィスにて。後ろにあるのはストリートビューの撮影に使う自転車です。



やロッククライミングなど、新しいことに挑戦する機会が増える点が好きだという統括部長。反面、史跡が少なく歴史好きとしては物足りないこともあるとか。Googleの優秀なお客様係なら「臆下丹田に気を集める合気道師範直伝の術で相対すれば史跡以外からも歴史が見えます」と教えてくれるでしょうか。

おまけQ&A

文学部社会学科で学んだことは？
「思考や社会の構造を考え抜くこと。レヴィストロースにハマりました」

学生時代にしたアルバイトは？
「家庭教師、生協のレジ、パン屋、神社の巫女さんなど」

休日には何をしていますか？
「息子のサッカーを応援したり、キャンプに行ってお充電したり」

東大に対して言いたいことは？
「全ての学生に多くのIT教育の機会を提供してほしい」

ランドバーグ史枝さん

Google コンシューマーケアオペレーション
統括部長
1996年文学部卒業

▶ <http://www.google.com>

の友人と会いやすいのも理由。

■ 日本人との交流を機に日本文化に目覚めた。アメリカより近くて親が安心するのも理由。不安もあったが東大なら大丈夫と信じた。

■ 日本はノーベル賞受賞者を輩出していて、日本語も素敵だから。東大は京大出身の伯父が一番だと教えてくれたから。

■ 仮名と漢字のバランスが美しい日本語が気に入った。研究するなら「チーム」の感覚がある日本の大学でと思った。

■ 仕事の姿勢やイノベーションへの情熱など学ぶべきことがあり、サステナビリティ学が進む日本に来た。東大はGPSS-GLIというプログラムに惹かれて。

■ 日本はハイテク先進国だから。東大が一番有名で、通っていた日本語学校が本郷に近く、よく構内を走って馴染んでいたのも理由。

■ アジアでの勉強に興味があり、水文学が発達する日本を選んだ。都市水文学と環境科学を両方学べ、理想の教授がいる東大へ。

■ 伝統的なものと現代的なもの

が混在する日本が面白そうだった。日本一の大学というブランド力に惹かれて東大に来た。

■ 海外経験豊富な父が日本の安全さを勧めた。東大の教員と交流がある父が日本で最良の機会を提供する大学と認めたのが東大。

■ 高校の先生から日本留学プログラムがあると聞き、応募した。

夢の扉をこじ開けたNASAの宇宙工学者

Masahiro Ono

小野雅裕さん

アメリカ航空宇宙局(NASA)
ジェット推進研究所(JPL)
2005年工学部卒業
▶ <http://hiroono.com/>

東大時代の 小野さん



ネバダ州の砂漠で小型模
擬人工衛星CanSatの打
ち上げ。



JPLに展示されている火
星ローバーの模型の前で。

望 遠鏡で夜空を見るのが好きな父の隣に
いるうちに自然と宇宙へと目が向き、
宇宙開発の歴史に名を残すことを夢見た小野
さん。東大の航空宇宙工学科では軌道を回る
小型人工衛星の世話に明け暮れる日々でした
が、周囲がスーツに着替えて就職活動を始め
ると、その流れに溺れかけました。大手企業
に就職するという現実的選択に傾く自分に違
和感を覚えた頃、同じ研究室出身の先輩が留
学先のMITから休暇で帰国し、話を聞く機会
がありました。

「先輩が進んでいる道のほうが、自分が進も
うとしている道よりも、過去の自分が憧れた
生き方に近いと感じました。聞き終わる頃には、
自分もMITへ行ってアメリカで宇宙開発
をする、と決めていました」

その後訪れる幾度かの困難など、違和感が
消え、覆われかけた夢が露わになった若者に
とっては大した敵ではなかったでしょう。20
13年にNASAの一員となった小野さん。今の
仕事は、火星ローバーの自動運転技術です。
任務は一日80mの走行距離を200mに向上さ
せること。2020年に火星を走るのは小野さん
の開発によるあらゆる凸凹を避けるマシンか
もしれません。さて、その先は？

「ゆくゆくは地球外生命を発見したいんです」
少し前までは夢こそが小野さんの原動力で
したが、2016年春、もう一つ小さくてかわい
くて大きな力が加わりました。地球外生命と
いう歴史に名を残す大発見に沸く父の隣で、
成長した娘さんは何を夢見るのでしょうか。

おまけQ&A

東大時代に入っていた部・サークルは？
「テニサーの「Amourette」。
サブキャプテンでした」

本郷キャンパスで好きだった場所は？
「中須賀真一先生の研究室と、人
工衛星の世話で深夜に通った工
学部7号館屋上です」

ご自身はグローバル人材だと思いますか？
「いいえ。やりたいことが国外
にあったから行っただけです」

東大生に言いたいことは？
「自分の世界を大きく広げてく
ださい。そのために大事なのは、
本を読むこと、旅をすること、恋
をすることです」



東大は、ランキングが高く、やはり「すごい大学」だから。
日本に旅行に来て大好きになり、母国と全く違う環境で勉強したいと思った。東大は母国の先生が推薦してくれた。
地震の研究をするなら日本しかないと思った。インド工科大学の恩師が今の指導教員と縁があり、

JICA奨学金で東大へ。
留学中の姉を訪ねて日本に夢中になり、迷うことなく日本に来た。日本の建築は世界的に有名で、建築といえば東大だった。
アニメを通して知る日本に関心があり日本人ペンパルもいた。高校時代に東大を目指す主人公のアニメを観て入学を決めた。

日本のドラマが好き（瑛太ファン）で日本の大学生に憧れた。母校で東大と共同研究をした後でアプローチして日本に来た。
婚約者が東大留学を決めたので、自分も日本へ来ることに。東大の研究室を選んだのは、英語の情報が充実していたから。
日本人の友達と日本語で話し

たかった。交換留学で日本に来た際に東大の先生が書いた心理学の本を読んで感銘を受け、東大へ。
勤勉で技術力に優れ、中東とも欧州とも違う日本に関心があった。人文と科学を融合した東大のプログラムは他に類がなかった。
伝統的な木造建築を近代的に応用する日本に興味を持った。伝

ブリュッセルでNATOと日本をつなぐ外交官

Kenji Morita

森田健司さん

在ベルギー-日本国大使館
一等書記官

2003年経済学部卒業

▶ <http://www.be.emb-japan.go.jp>

森 田さんの職場はベルギーの日本大使館。安全保障班所属の一等書記官が主に担当するのは、ブリュッセルに本部がある北大西洋条約機構（NATO）と日本との協力関係

進展と関連案件に関する調整業務です。

「実際には、日本からの訪問者のお世話や、いわゆる事務作業など、一般的な仕事も多いですよ。でも、外務省とNATOの間で自らが主体となって調整した案件が成就したときの充実感

は、何物にも代え難いです」

駒場時代は香川県人寮で同郷の間と濃密な人間関係を築き、経済学部の伊藤正直ゼミで物事を大局的に考察する姿勢を学んだ森田さんは、「受験生の頃から英語は全く不得意」。2003年に入った防衛庁では部隊運用、人事、予算、法令等に関する業務を行ない、国土交通省では国内物流を支える内航海運に関する仕事に従事したそうです。一見、海外で活躍する現在の姿につながらない気もしますが、そこに

東大時代の森田さん



卒業旅行で訪れたローマのコロッセオにて。

は納得の経緯がありました。

「自衛隊の国際貢献という未踏の分野で貢献したいと思ったのが防衛庁に入るきっかけでした。職員向けプログラムを利用してロンドンの大学に留学し、アフガニスタンの治安回復に関するNATOの取り組みに着目する論文を執筆したのが、結果的には現職につながったのかと思います」

日本と違うイベントが多く、気軽にゴルフができるベルギーで、ご家族との生活を楽しみながら、日本の安全保障に貢献したいという思いで、一等書記官は日本と世界の間を日々調整しています。



大使公邸における自衛隊記念日レセプションにて、奥様と。

おまけQ&A

東大時代、一番印象的だった思い出は？
「年に1回のゼミ合宿。中でも、ソウルで高麗大学と行った回です」

東大キャンパスで好きだった場所は？
「アカデミックで荘厳な雰囲気の総合図書館。卒業後も利用しています」

東大に対して言いたいことは？
「企業には難しい、多様な価値観を含む柔軟な組織を志向してほしい」

東大が目指すべき国際化とは？
「留学生を増やす以外の、日本人学生への取り組みをさらに期待します」

統的な京都より未来志向の東京が勉強になると思って東大へ。

日本にしたのは母国と全く違う国だから。両親も日本なら成長できると勧めた。東大に決めたのは日本一の大学だから。

「犬夜叉」「攻殻機動隊」「蟲師」と日本のアニメに惹かれた。字幕に頼らずに観ようと日本語を学び

始めたのがきっかけ。

日本製家電ファンの父から日本留学を勧められた。自分のやりたい分野で素晴らしい研究をする教員がいる東大を選んだ。

東大かオーストラリアの大学かで考えた。英語圏のオーストラリアにも惹かれたが、研究に重点を置く東大を選んだ。

社会基盤開発の分野で実践的な教育をしている日本に惹かれた。東大はやりたい研究ができる場所だと確信して来た。

日本は国際機関で貢献しているのが魅力だった。留学生を迎える体制と、保健政策学に積極的な点に惹かれて東大へ。

外の世界を見たかった。イタ

リアか日本かで考え、文化の全く異なる日本にした。東大を選んだのは学際的な勉強ができるから。

東大には109の国・地域から来た3328人の留学生がいます(2016年5月1日現在)。内訳はアジア80.7%、ヨーロッパ10.0%、北米2.6%、中南米2.1%、その他です。

微細藻類を軸に持続可能社会を目指す 「バイオマス・シヨア」構想

微生物と植物の特徴を両方持っているのが、微細藻類という生物です。この微細藻類の潜在能力に着目し、二酸化炭素を削減しながら産業活動を行う持続可能社会に活用する構想を練っているのが、倉橋先生。なかでも特にデュナリエラという種にこだわり、沙漠、海洋深層水、地熱を組み合わせて培養したグランドデザインをお見知りおきください。



倉橋みどり / 文
農学生命科学研究科
特任准教授

<http://biomass.html.xdomain.jp/>

温

暖化問題について、IPCC（国連気候変動に関する政府間パネル）では、

「即刻手を打たないと人間社会や生態系に、厳しく、取り戻すことができない悪影響が及ぶ」と指摘しています。にもかかわらず、私たちはこれといった手立てを講じることができていません。大脳を発達させたはずのホモ・サピエンス種ですが、このあたりが限界でしょうか？ ホモ・サピエンスの端くれとして「バイオマス・シヨア」と名付けたグランドデザインを考案しましたので紹介させていただきます。

大気中の二酸化炭素濃度に関する話ですから、アマゾンの大森林のような「規模」を念頭に置くことが非常に重要です。この規模の陸上植物の植林は難しいので、代わりに微細藻類という光合成微生物を沙漠地帯に大規模培養し、大量の二酸化炭素を吸収してもらいながら同時に産業を興します。

まず、再生可能エネルギーを利用して海洋深層水を沙漠に汲み上げ、深層水の冷熱と地熱（低温地熱でOK）の温度差を使い、濃い海水と淡水に分けます。温度差を利用することで発電も可能です。現在、中東などで行われている温度差淡水化事業では、濃い海水は捨てられていますが、バイオマス・シヨア構想では、濃い海水を使って沙漠海岸地帯に大規模水田を造成し、デュナリエラという濃い海水を好む微細藻類を培養します。海洋深層水には窒素、リンなどが表層海水の数十倍含まれるので、藻類培養の肥料の助けになります。

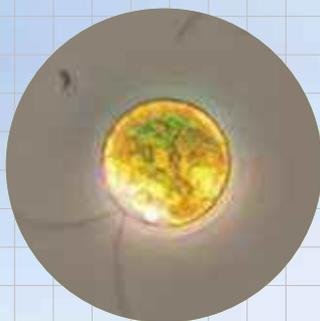
デュナリエラから抽出できる脂質は、食料

用油脂や化学品の原料として利用します。この脂質は、今後原油価格が高騰するような事態になれば、化学的な処理を行うことでいつでも燃料油に変換できます。また、デュナリエラの作り出すタンパク質は飼料として良質であることがわかっていますので、これは後述の水産ユニットに供給します。さらに、デュナリエラはグリセリンという形で大量の炭水化物を生産しますので、これを発酵の原料として使うことができます。発酵は、今や工業用途の酵素生産など、とても大きな産業に発展しています。そのため、原料となる炭水化物が不足してきており、デュナリエラが生産する大量のグリセリンは沙漠に発酵産業を集積させるのに十分な魅力があります。続いて、発酵産業の残渣として窒素やリンを回収します。これはもとのデュナリエラ培養に追肥することができます。

ここまでのグランドデザインを振り返りま

すと、陸上植物生産に必要な「太陽光」「淡水」「肥料」がそろっています。すなわち、沙漠海岸付近に大規模な植物生産ユニットを設置する経済的優位性が生じたのです。さらに、海洋深層水の特徴をすべて活かし、多段生産による水産物生産ユニットの設置も予定しています。水産物生産ユニットから出る排水中のアンモニアは大型海藻に窒素源として利用させ、大型海藻からはマンニトールを抽出し発酵ユニットに送ります。発酵により生産された水素は、エネルギーユニットへ。

このように、未利用資源である沙漠、深層水、微細藻類、地熱などを利用し、「微細藻類生産」「植物生産」「発酵生産」「水産物生産」「エネルギー生産」等各ユニットが有機的に結合したバイオマス・コンビナートを形成させます。これは、持続可能社会の一つのモデルであり、実行されれば「二酸化炭素を削減しながら産業活動を行う社会」が達成されます。



顕微鏡で観察したデュナリエラ。もう少しスリムなときもあります。ヒゲで水を掻くようにして進みます。



オーストラリア西海岸の沙漠地帯にて。ピンクに見えるのはデュナリエラの湖です。

バイオマス・シヨア構想

沙漠臨海部は再生可能エネルギーの宝庫。石油コンビナートに替わる「バイオマス・コンビナート」を造り、持続可能社会に挑戦します。



倉橋先生の著書（共著）
「応用微細藻類学—食料からエネルギーまで」
（成山堂書店 / 2013年2月刊
3000円＋税）



さあ、みんなで海へ出よう

——海洋底地球科学

現在では遠い星々の表面も精細な画像で見ることができます。でも、地球は別。実は未精査の部分も多々あります。それが海洋底。大量の海水の影響で、観測が非常に難しいのです。幾多の困難にめげず、世界の大海原で海洋底の多様な姿を探ってきた研究者が、学際研究と船酔いの現場から、海の浪漫に溢れた地球科学の世界へ誘います。

沖野郷子 / 文
大気海洋研究所教授

<http://ofgs.aori.u-tokyo.ac.jp/~okino/>



日 本で大きな地震が起こると、たいいてい地震研究所の先生がテレビに登場して「これは太平洋プレートが日本の下に沈み込んで云々」といった説明をされます。そのおかげか、どうやら日本はプレートが沈み込む場所で、そのため地震や火山が多いらしい、という認識はかなり広まっているようです。研究者をみても、日本は沈み込み帯の研究をするには絶好の場所という地の利と、防災面で強い社会的要請があるので、沈み込み帯とその関連現象や構造を研究対象とする人が多数派です。でも、その沈み込んでいるプレートはいったいどこで生まれたのでしょうか？どこか遠く？

地球の表面がいくつかの硬い板(プレート)に分かれていて、それらがお互いに運動しているというプレートテクトニクスの考え方は、1960年代後半に成立しました。この考え方は、地球深部の現象や劇的な変動について説明しきれないという点はあるにせよ、現在でも地球科学の基本となっています。プレートテクトニクスに基づくと、隣り合うプレートがお互いに離れていく場所では、その隙間を埋めるようにプレートの下にある物質(岩石)が上昇してきて、新しいプレートをつくと説明されます。上昇してきた岩石の一部は溶けてマグマになり、火山ができます。火山から流れる溶岩が新しい海底となるのです。このような火山は中央海嶺と呼ばれ、惑星地球の火山活動の8割を担っています。

「新しい海底が生まれる」というイメージはワクワクしませんか？ 私の研究の基本テーマは、どうやって海底が生まれ、変化し、多様な海底の姿ができるのか、です。中央海嶺の研究には、観測から試料分析、数値実験まで様々なアプローチがありますが、私自身は研究船や有人・無人の深海探査機を使って、地形や表層地質構造、地磁気、重力などを観測しています。しかし！中央海嶺は日本からは本当に遠いのです。欧米の研究者が比較的近距离にある大西洋と太平洋の中央海嶺で研究を展開したため、日本の先輩研究者は、「インド洋はまだ手つかず、欧米からより日



インド洋中央海嶺で有人潜水調査船「しんかい6500」から撮影した真新しい溶岩。枕状の溶岩が積み重なって新しい海底をつくっています。

©JAMSTEC

海底はダイナミックな地質現象が起こっている場所で、陸よりもはるかに起伏に富んだ世界です(データ:ETOP01)。



学術研究船「白鳳丸」。こんなよい天気の日ばかりではありませんが…。

本から行くほうが近くて先手が打てる」と90年代にインド洋の調査に乗り出しました。私をはじめインド洋の中央海嶺に行ったのは2000年ですが、その後何度かの航海を重ね、潜水船で潜り、今や一部は私の庭(?)の気持ちです。この庭で、火山活動と断層活動の関係を主眼に研究を行っています。

遠洋での航海は時間も費用もかかり、一人でふらっと行くというわけにはいきません。数年かけて研究チームを編成し、計画を練り、予算と船の両方のプロポーザルを通し、ようやく観測は実現します。中央海嶺には熱水系と呼ばれる温泉が湧いている場所があり、生物や化学の研究者も非常に興味を持っています。もしこれが陸上であれば、分野の違う研

究者はそれぞれ車で勝手に調査に行き、せいぜい研究会で意見を交わす程度でしょう。しかし、海の現場では、実際に同じ船に乗り、すぐ隣で作業し、食事(と酒と船酔い)を数週間共にすることになります。ここでの議論や雑談を通して生まれたアイデアがまた次の計画へとつながります。これぞ学際領域の創成、中央海嶺では海底だけでなく新しいサイエンスも生まれています。

沖野先生の著書(共著)
『海洋底地球科学』(東京大学出版
会/2016年5月刊3800円+税)





広嶋卓也

農学生命科学研究科附属演習林
生態水文学研究所 所長
<http://www.ufa.u-tokyo.ac.jp/eri/>

キャンパス散歩 第34回

森林・水・人間の相互作用を研究・教育する
生態水文学研究所

生 態水文学研究所は、大学院農学生命科学研究科の附属演習林に属する地方演習林のひとつで、森林・水・人間の相互作用に関する基礎・応用研究と大学生・大学院生の教育を目的として、2011年に愛知演習林を改称し発足しました。

生態水文学研究所は、古くから日本の陶器生産の中心地であった愛知県尾張東部丘陵に位置しています。この地域では、多くの森林が製陶用の薪を得るために根株まで伐採されて、無立木地や無植生地、いわゆるハゲ山となりました。さらに地質が、風化した花崗岩や砂礫層であることも相まって、ハゲ山に由来する河川への土砂流出や下流域の水害も増えたことから、愛知県はハゲ山の復旧工事の設計を当時の東京帝国大学に依頼しました。そうした背景のもと1922年に東京帝国大学はこの地域の約1,300ヘクタールの御料林（現在の国有林）を取得し、農学部附属愛知県演習林と名付けました。当初の演習林の設置目的は、ハゲ山を森林に再生し、同時にその過程を長期にわたり観測し、科学的なデータを残すこととされ、その精神は生態水文学研究所へと受け継がれ、創設以来94年が経過するに至りました。

現在、生態水文学研究所は主に、愛知県瀬戸市に位置する五位塚事務所・研究室（1ヘクタール）、赤津研究林（745ヘクタール）、穴の宮試験地（77ヘクタール）および犬山市に位置する犬山研究林（443ヘクタール）より構成されています。

五位塚事務所・研究室（写真1）は瀬戸市の中心部に位置するメインオフィスで、住宅街に隣接する小高い丘の上にあります。住宅地に近いがゆえ、敷地内の樹木の管理（倒木や病虫害等）にはとても気を遣います。

赤津研究林は名鉄瀬戸線尾張瀬戸駅から車で10分ほどでアクセスできる都市近郊林です。赤津宿泊施設（写真2）は最大30名が宿泊可能で、講義室も備えた、生態水文学研究所の宿泊・利用拠点です。赤津宿泊施設の前には白坂気象観測露場（写真3）があり、1929年より降水量、気温、地温、湿度、風速等の観

測を続けています。さらに露場の南隣には白坂量水堰（写真4）があり、ここでも1929年の設置以来、継続的に流出水量が観測されています。この量水堰は、標高690メートルの猿投山北麓に広がる89ヘクタールの集水域から流出する川の水量を観測しており、先の気象データと合わせて、降水、流出、損失（蒸発散量や地下への流出量）量の長期データを得ています。赤津研究林の天然林には、樹木の遷り変わりを調べる長期生態系プロット（写真5）が設置され、10メートル四方に区切られた

多数のプロット内で、樹木の個体識別、幹直径の測定、落下種子の採取等が定期的に行われています。現在の赤津研究林は全域的に森林で覆われていますが、かつてのハゲ山の名残（写真6）が見られる場所もあります。また室町時代に山中で使用されていた陶器窯跡（写真7）も残されており、国の史跡に指定されています。

五位塚事務所から車で10分ほどでアクセスできる穴の宮試験地には生態水文学研究所で最も古い量水堰（写真8）があり、こちらでは1925年より流出水量が観測されています。

犬山研究林は五位塚事務所から車で約1時間でアクセスできる都市近郊林です。犬山研究林では、ハゲ山からの森林再生のために、昭和初期から様々な砂防工事と緑化工事が行われてきました。砂防工事の代表的なものとして、土堰堤（写真9）があります。写真のコンクリート放水路付き土堰堤は、東京帝国

大学の諸戸北郎博士の設計により1929年頃に作られた歴史的価値の高いものです。より近代的なものでは1978年に愛知県が治山工事で設置したコンクリート堰堤（写真10）や鉄鋼自在枠堰堤（写真11）などもあります。他にも、谷筋の流水や土砂を安定させる「谷止工」（写真12）、川岸や川底を安定させる「流路工」（写真13）、「床固工」（写真14）といった砂防工事跡が犬山研究林の随所に見られます。また明瞭ではありませんが、山腹斜面には「法切工」、「筋工」といった当時の緑化工事の跡も見られます。現在の犬山研究林では、赤津研究林と同様に森林が再生され、たとえば植生の違いが水の流れにおよぼす影響を研究するライシメータ（写真15）と呼ばれる実験施設を使うなど、生態水文学に関する様々な研究が行われています。

※生態水文学研究所の研究林内に見学で立ち入りたり、施設を利用したりするには、事前に保険に加入された上で、所定の書類を提出し許可を得ていただく必要があります。

1. 五位塚事務所
2. 赤津宿泊施設
3. 白坂気象観測露場
4. 白坂量水堰
5. 白坂長期生態系プロット
6. 風化した花崗岩が露出した尾根
7. 小長曾陶器窯跡
8. 穴の宮量水堰
9. 土堰堤(放水路がコンクリート製)
10. コンクリート堰堤
11. 鉄鋼自在枠堰堤
12. 玉石空積みによる谷止工
13. 流路工跡
14. 鉄線蛇籠による床固工
15. ライシメータ

1	2	3
4	5	6
7	8	9
10	11	12
13	14	15



9/24

第55回七大戦で東大が 11回目の総合優勝



大会参与の南風原朝和理事・副学長から優勝旗を授かる運動会総務部委員長。

7つの旧帝大が42種目で覇を競う第55回全国七大学総合体育大会(七大戦)が全日程を終了、東大は見事総合優勝を果たしました(2011年以來、11度目)。主管大学としての優勝は第27回大会以來5度目。歴代最高得点という結果を残す快挙でした。2015年12月の開幕から首位を守り続けた東大は、夏場に一時阪大の後塵を拝したものの、その後巻き返し、41種目目の自動車競技で9月14日に総合優勝を確定させました。13種目で優勝、6種目で準優勝を果たし、7位に甘んじたのは4種目だけでした。連覇のかかる第56回大会は名大の主管ですすでに開幕。淡青色の健児たちのさらなる活躍にご期待ください。

最終順位

1位	東京大学	234.5pt
2位	大阪大学	222pt
3位	東北大学	212pt
4位	京都大学	181pt
5位	名古屋大学	170pt
6位	九州大学	162.5pt
7位	北海道大学	148pt

11/17

花ハス「月のほほえみ」が 東大名で品種登録



おだやかな月光を思わせる花色が特徴。



最寄り駅は西武新宿線田無駅です。

200種以上のハスを展示・保存している農学生命科学研究科附属生態調和農学機構のハス見本園。このほど、機構の前身の一つである緑地植物実験所で育成した花ハス「月のほほえみ」が、種苗法の規定に基づき品種登録されました(品種登録番号25521)。2010年に出願し、7年越しでの登録となったもの。これで、国立大学法人東京大学名での登録品種は「緑地美人」との2種になりました。^{タイサイケン}「アメリカ黄蓮」と「大瀧錦」との交配から生まれた「月のほほえみ」は、花びらがクリーム色で、比較的大きな花を高い位置につけるのが特徴の早咲きの品種。花色がおだやかな月光のようであることが名の由来です。その「笑顔」は7月の一般公開でご覧になれます。www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/lotus/

12/9

VRコンテンツ始動 神岡の実験施設を探検する

東京大学宇宙線研究所は、岐阜県飛騨市の神岡鉱山の地下にある実験施設を360度パノラマ画像で探検できるVirtual RealityコンテンツのWeb配信を始めました。世界最大の地下ニュートリノ観測装置「スーパーカミオカンデ」、暗黒物質の直接検出を目指す「XMASS」、大型低温重力波望遠鏡「KAGRA」の周辺を探検ができるというもの。PCでも楽しめますが、ジャイロ機能のあるスマホやタブレット端末の使用が断然お薦め。己の動きに応じて眺望がぐるぐる動くのを見るうち、心はすでに飛行中。宇宙素粒子研究の現場を覗く特別ツアー、参加料は無料です。www.icrr.u-tokyo.ac.jp/panorama/



坑道からXMASS方面を望む。上下左右に自由に移動が可能です。



SKコントロールルーム前には小柴昌俊先生ほか様々な著名人のサインが。

12/11

本学卒業生の大隅良典 先生にノーベル賞



2月22日には、駒場キャンパスにて大隅先生の記念講演会・交流会、特別栄誉教授の称号授与式が行われました。

東京工業大学栄誉教授の大隅良典先生が2016年のノーベル生理学・医学賞を受賞されました。大隅先生は、1967年に教養学部基礎科学科(現在は統合自然科学科に改組)を卒業され、大学院理学系研究科相関理化学専攻(同専攻の場所は駒場)で博士号を取得された後、アメリカのロックフェラー大学で研究員、本学理学部で助手・講師としてご活躍。その後は教養学部で助教授として研究・教育活動に従事されました。今回の受賞のテーマであるオートファジー(細胞が自らのタンパク質等の自己成分を分解して再利用する仕組み)の研究は、助教授時代の発見が端緒となったもの。偉大な「知のプロフェッショナル」の先達である大隅先生のノーベル賞受賞は、東京大学にとって大きな誇りです。

12/16

日本サッカー協会との
連携協定を締結



12月16日、日本サッカー協会(JFA)とスポーツ医科学研究の推進などに関する連携協定を締結しました。スポーツ医科学の発展、その成果の活用による競技水準向上や日本代表の強化のほか、スポーツを通じた地域活性化や健康増進を実現し、スポーツ文化発展に寄与することを目指したものです。

夜には安田講堂で記念式典を開催。五神総長とJFA会長の田嶋幸三さんが構想を語ったほか、鈴木大地さん、川淵三郎さん、大澤英雄さん、浅見俊雄さん、国際サッカー連盟(FIFA)会長のジャンニ・インファンティーノさん、かつての名手で現在はFIFA副事務局長のスボニル・ボバンさんからもお祝いの言葉をいただきました。

ボバンさんは聴衆との質疑応答も行い、「人工知能より選手の知性を信じる」「政治とサッカーは分けられない」「クロアチアは戦争で悲惨な時期を過ごしたが、今は敵ともより近く互いに尊敬し合う関係になりつつある」などと発言。レジェンドならではの説得力あるお話に、居合わせたサッカーファンの多くが感激の念を抱きました。

日本代表監督に2人を、JFA会長に4人を、サッカー殿堂に12人を輩出するなど、深い関係を持ってきた東大と日本サッカー。これから始まるバスのやりとりとそこからのゴールにご期待下さい。

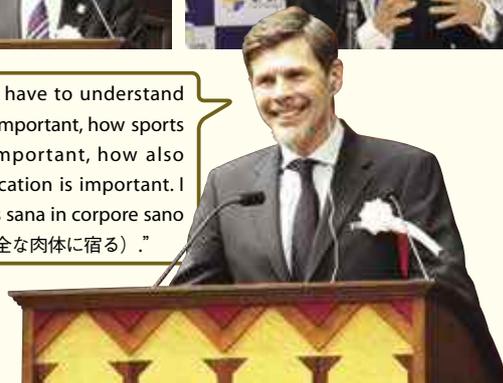


1.左/JFA会長 田嶋幸三さん 右/五神真総長 2.JFA最高顧問 川淵三郎さん
3.FIFA会長 ジャンニ・インファンティーノさん 4.スポーツ庁長官 鈴木大地さん
5.日本サッカー殿堂掲額者 浅見俊雄さん 6.日本サッカー指導者協会理事長大澤英雄さん
7.鈴木寛公共政策学連携研究部教授・JFA理事 8.境田正樹理事 9.FIFA事務総長代理 スボニル・ボバンさん



Also politicians have to understand how football is important, how sports in general is important, how also school and education is important. I believe in "Mens sana in corpore sano (健全な精神は健全な肉体に宿る)."

9



1/23

東大の新紹介ビデオ
"UTokyo/Society"を公開

東京大学は、新たな大学紹介ビデオ"UTokyo/Society"を公開しました。本ビデオは、東京大学の役割や卓越性を広く国内外に示すため、第一線で活躍する映像クリエイターと学内の20を超える研究室の力を借りて、ナレーションを使わずに約2分間の「映像」と「音」で構成したものです。また、「なぜ"UTokyo/Society"というタイトルなのか」、「左右の画面に表示されるものが何を意味するのか」、「この研究はどこで行われているのか」といった疑問に答える解説ページも用意しました。ビデオを閲覧してから解説を読むとより楽しめます。社会に繋がる大学の姿をぜひご確認ください。www.youtube.com/user/UTokyoPR



制作は「ALWAYS三丁目の夕日」で有名な(株)ロケット。監督は上田大樹さん。



インターメディアテクの大地球儀

1923年の関東大震災で、東京帝国大学は壊滅的打撃を受けました。書籍の焼失だけでも50万冊以上だったとされます。しかし、惨状を知った世界各国から手が差し伸べられ、その中にはベルギーからの支援もありました。実は、第一次世界大戦中、ドイツ侵攻で30万冊もの図書を焼失したベルギーのルーヴァン大学に、帝国大学が貴重書1万4千冊を寄贈したという前史があったのです。

ベルギーとの交流を末永く記念するため、大地球儀の製作と図書館への設置を決めた帝国大学は、ベルギー側に地球儀を発注します。しかし、納品はなぜか遅れました。直径159cmの球体がようやく届いたのは、日中戦争の直前、1937年のこと。この地球儀は、なぜか未彩色でした。当時の記録は、ベルギー側が日本側の好みを考慮して彩色しなかった旨を伝えます。しかし、東大図書館を退職後、『色のない地球儀』（同時代社）を著した薄久代さんは、「当時この地球儀を見た人々は、戦雲ただならぬ日本への無言の警告とは感じなかったであろうか」と記しています。

後に帝大側によって彩色が施された大地球儀は、数多の学術遺産に囲まれながら、今日も静かに佇んでいます。